# 21世紀 WAKAYAMA

Wakayama Institute for Social and Economic Development

VOL.97

一般財団法人 和歌山社会経済研究所

21世紀 WAKAYAMA
Wakayama Institute for Social and Economic Development
VOL.97

# CONTENTS


## 巻頭言

コロナ後の「令和」に相応しい国・まち
芝浦工業大学客員教授　谷口 博昭　2

## 寄　稿

1　和歌山市活性化の起爆剤をつくる ～キーノ和歌山の開発について～
南海電気鉄道㈱ 上席執行役員 都市創造本部長　西山 哲弘　4

2　加太地域における住民、行政及び大学による地域活性化施策について
― 成果と今後の課題点
東京大学 生産技術研究所　川添研究室 加太分室
派遣連携研究員（元 和歌山市企画課）中本 有美／助教 青木 佳子　8

3　バリアフリー和尚　これにあり　紀三井寺 貫主　前田 泰道　13

4　絵葉書収集の半生をふりかえって　古書肆 紀国堂　溝端 佳則　17

5　政治とカネの問題　何はともあれ　まずは透明性を
朝日新聞和歌山総局長　築島 稔　21

## 研究成果報告

1　アンケート調査の自由記述文章を“定量分析”
（一財）和歌山社会経済研究所 主任研究員　長谷川 強　25

2　和歌山における過疎対策についての私的一考察
（一財）和歌山社会経済研究所 主任研究員　佐野 利之　32

## 経済指標

コロナ禍における和歌山県内事業者の取り組み
（一財）和歌山社会経済研究所 研究員　藤本 迪也　36

## グラフで見る和歌山県経済指標　40

## 和歌山ブラぶらウォッチング ㊲　44

## 研究所だより　45

## 編集後記

起業現場におけるメンター（助言者）の重要性――「ビジネスプラン・コンテスト」の意義　46

巻頭言

# コロナ後の「令和」に相応しい国・まち

芝浦工業大学客員教授
谷口 博昭

## はじめに

私は、和歌山市に生まれ高校卒業後大学、社会人としての千葉県、東京都、茨城県、大阪府、静岡県、愛知県での転居を経て現在東京都居住が30年を数えるに至っていますが、“故郷忘じがたく候”の念は消えることはありません。和歌山が持続的発展を遂げることを祈念し、国・まちについて日頃想い考えていることを以下に記します。

## 1. コロナ後のパラダイムシフト、自然との共生＆ワークからライフへ

昨年は熊本豪雨等の災害もありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に明け暮れた一年でした。新年の今も、働き方改革と共にマスク着用、手洗い消毒、三密回避等の徹底を基本とするWITHコロナの新たな日常が求められる。感染の全体像と収束の出口戦略を示すことが急務だが、国民の将来不安を解消するためコロナ後の生活経済社会再生の全体俯瞰図＝ビッグピクチャーを示すことが肝要である。ひと・モノ・カネがシームレスに移動し、少子高齢化・人口減少が進展する大きな変化の時代、バイデン大統領の訴える「分断」を「癒す時」、グテーレス国連事務総長が訴える「地球を癒す時」です。これまでの延長上でないパラダイムシフトが欠かせない。

新型コロナウイルス感染対策は初期対応に問題があり緩慢な措置に留まった国が多くパンデミックとなった。その背景にあった自国ファーストによる対立からグローバルな協調へのパラダイムシフトが求められる。感染対策においても、国と都道府県知事、感染症・公衆衛生と医療の協調が欠かせない。加えてコロナ感染は野生動物の生息域減少が誘因と推測され自然保全が欠かせない。自然と対峙することなく自然の中に身を置き自然と一体となり生かされている自己を悟り、自然や他者と共に生きる共生（ともいき）の価値観が醸成され、菅総理が標榜された「自助・共助・公助、そして絆」形成に繋がります。

次に、マネーや効率偏重経済から安全や健康重視生活への転換です。経済が疲弊し失業すれば生活が成り立たない面があるが、ワークからライフ優先への転換、安全で健康なライフがあって新たな価値を創造し得るワークが成り立

つとの認識が肝要だ。文明的且つ文化的な豊かさを尊重する「ウエルビーイング」や白浜でも取り組んでいる「ワーケーション」の進展が期待される。

## 2. 分散型国土形成へ、「国土強靭化」と「地方創生」のさらなる推進

首都直下地震や南海トラフ地震に加え東京はじめ大都市の人口集中の脆弱性を顕在させたコロナ感染等による災害のリスクを回避する分散型国土構造を図ることが急務であり、「国土強靭化」の加速が求められる。令和２年度で終了する「防災・減災、国土強靭化のための３カ年緊急対策」に代わり、事業規模が７兆円から 15 兆円に拡大、５カ年に延長する加速対策が閣議決定された。「国土強靭化」加速に際し、南北３千キロの亜寒帯から亜熱帯までの多様な気候風土の中で暮らしてきた地域の自然、歴史・文化、智恵を活かすことが求められる。故に、地方自治体の総合計画や都市計画との整合性を図り、画一的でない地域に応じた肌理細やかで効果的な国土強靭化地域計画の策定が欠かせない。

ここに、過度な東京一極集中を解消し“国土の均衡ある発展”を図るため、「国土強靭化」と理念を共有する「地方創生」の推進が求められるが、今一迫力に欠ける。テレワークの進展等により東京都転出超過が続いているとの報道がある。また、万葉集からの出典の「令和」は、四季折々の花鳥風月や山紫水明の自然豊かな地方を尊重することを諭しており、「地方創生」の一層の強化・加速が欠かせない。

「地方創生」は「まち・ひと・しごと」の調和の取れた創生が肝要だ。改定された総合戦略で提案の「関係人口」を経て「交流人口」から「定住人口」に繋げ渦巻き状に進展するこが期待される。この際、交流を促進する情報通信網と陸海空広域交通網の整備が欠かせない。また、「地方創生」はオンリーワンの地域特性により大都市や他地域との競争に打ち勝つことが肝要であり、メニューありきでなく効果的な戦略プロジェクトに対し行政区域に拘らずに支援する柔軟性を期待したい。併せて、東京がグローバルな競争に勝ち残るべく諸環境を改善し、東京と地方との連携・交流により相互互恵となり、国全体が「創生」することを期待したい。

## 3. 和歌山の地域資源を活かした「地方創生」

人口減少時代、他地域との差別化を図り「地方創生」を加速するためには、自然景観、歴史文化や伝統の技を尊重すると共に量から質へ、モノからコト・サービスへの転換を図り、未来志向で地域資源を磨き活かし付加価値を創造することが肝要である。和歌の神「衣通姫尊（そとおりひめのみこと）」は「玉津島神社」に祀られ、片男波にある万葉館には、県内を旅した 107 首が残されている。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を辿れば、山、川、海の自然景観とその産物は有数、温泉もあり観光資源が豊富であることが実感できる。県誕生 150 年記念の「紀の国わかやま文化祭 2021 ～山青し海青し文化は輝く～」の様な地域の文化資源活用が期待される。また、串本町で建設中の「スペースポート紀伊」は時代をリードするプロジェクトとして期待される。この際、雇用と定住を勘案し、IT（情報技術）活用に凭れ過ぎずに「地産地消」の理念の下、地域に根差したサービス産業や農林水産業と共に地域の安全・安心と雇用・経済を支える地場産業や社会福祉事業を然るべき評価し活用することを望みたい。

本年の干支「辛丑」は新しき芽生えを見出す年。産学官、老若男女が、郷土愛を共有し、自らの地域・まちは自らのチエと力で守り良くするとの決意を持って、幾多の失敗に諦めず乗り越え、優れた地域特性を磨き活かし魅力あふれる県土へと前進する芽生えの年となることを祈念する。

寄稿 1

# 和歌山市活性化の起爆剤をつくる

## ～キーノ和歌山の開発について～

南海電気鉄道㈱ 上席執行役員 都市創造本部長

西山　哲弘

「和歌山市駅活性化計画」における中核施設として、「キーノ和歌山」が 2020 年 6 月 5 日にグランドオープンを迎えてから約 10 カ月が経過しました。開業以来、半年間で約 130 万人（図書館来館者含まず）のお客さまに来館いただいています。繰り返しお越しいただいているお客さまも多く、地元近隣の住民の皆さまに喜んでいただけているものと考えています。当社の中期経営計画「共創 136 計画」では「駅を拠点としたまちづくり」を基本方針として掲げており、「キーノ和歌山」については、その一つと位置づけ、また「和歌山を元気にしたい」という想いを持ち「和歌山の未来を創る」をコンセプトに当再開発計画を推進してきました。

「キーノ和歌山」の開業によって、地域の皆さまがより豊かな生活を送ることができる一助になりたいと考えております。今回、改めて「キーノ和歌山」の概要を紹介させていただきます。（写真①）

写真①　全景

### 1. 開発の経緯

南海和歌山市駅は、市中心部の北西に位置し、開業は 1903 年までさかのぼり、歴史はゆうに 100 年を超えます。その長い歴史の中では、戦禍に会いながらも、和歌山市民の足となり、大阪なんばへの動脈を担ってきました。1967 年には 1 日の乗降客数はピークを迎え、5 万人を超える規模となりました。しかし、その後

20年余りを経て、ブラクリ丁など中心市街地は衰退の一途となり、和歌山市駅も2000年代前半には、1日乗降客2万人を下回るようになりました。また、追い打ちをかけるように、和歌山市駅の核テナントである、「髙島屋和歌山店」の撤退が決まり、当社としても無為に過ごす時間はもう無くなっていました。

このような状況を打開すべく、行政とも連携し、中心市街地活性化のため、再開発を推進することになりました。

開発にあたり、当社では和歌山市、和歌山県と連携し、和歌山市駅周辺地域の活性化の起爆剤とすべく、①文化・交流拠点の創出、②都市機能の集積、③交通結節の強化を目的に「和歌山市駅活性化計画」を策定しました。第1期計画で、オフィス棟「南海和歌山市駅ビル」が2017年3月に竣工、また、改札を2階から1階に移し、同年7月に運用を開始しました。

第2期計画は、「和歌山市駅前地区第1種市街地再開発事業」として2016年9月に事業認可、和歌山市と共同で開発・整備を進め、2018年6月には駐車場棟が供用開始、2020年6月に市民図書館棟と商業棟が、同7月にホテル棟が開業しました。

## 2. 施設構成

「和歌山市駅活性化計画」における複合商業施設である「キーノ和歌山」。南海和歌山市駅を中心に、商業棟、ホテル棟、市民図書館棟、オフィス棟、立体駐車場で構成されています。新設されたターミナルビルは、開放的で親しみやすいデザインを取り入れました。商業棟とホテル棟の間に設けられた駅改札正面の通路は、3階までの吹き抜け空間となっており、駅改札から出て、見上げる景色は圧巻です。外壁にガラスを多用し、人の動きが見えることで、親しみやすさと賑わい感を創出しています。通路の天井部分等には紀州材を使用し、和歌山の玄関口にふさわしい、その土地特有の「和歌山らしさ」を表現しました。

商業ゾーンの1階から3階に渡る各フロアには確固たるコンセプトを持って店舗誘致に取り組みました。開業までの長期にわたるテナント誘致活動の中で、紆余曲折もございましたが、結果的に非常に魅力あふれるテナントに集まっていただくことができました。全国初出店が3店舗、和歌山県初出店が5店舗を含む合計29店舗が出店しています。各フロアのコンセプトや核テナントは以下の通りです。

### (1) 全国初出店となる産直売場も含んだ組み合わせ型食料品スーパーの誕生

“精肉、鮮魚、青果、惣菜のそれぞれの専門店が組み合わさり一つになることで食料品スーパーを形成する”、これがこれから未来の食料品スーパーの形として面白いのではと考えました。“わざわざでも行きたくなる”をテーマに、各分野それぞれの専門店が厳選した高品質な生鮮食品をはじめ、こだわりの食品雑貨や和歌山ならではの食材を提供しています。

また、地元近隣のお客さまに加え、観光客の皆さまにも楽しんでいただけるよう、和歌山の産直ブースが店内に約30社出店しているのも特徴で、「公益財団法人日本デザイン振興会」が主催する、毎年デザインが優れた物事に贈られる2020年度「グッドデザイン賞」を受賞しました。(写真②-1)(写真②-2)

写真②-1　ロックスターファームズ正面

写真②-2　産直ブース

**(2) 和歌山を代表する地元人気店が集結したフードホールを創る**

「フードホール」の定義には「その地域で採れた食材を使ったローカルで質にもこだわった飲食店の集まり」や「それ自体が来訪の目的となる飲食店の集まり」といった意味があります。普通のレストランフロアでなく、その「フードホール」を和歌山に創ることを目指して、和歌山県に拠点を置き、地元食材を使った人気飲食店を2階に集積しました。

多くの方が行き交う駅直結施設であるため、店舗それぞれの個性を演出しお客さまに楽しんでいただけるよう、共有の飲食スペースは敢えて設けず、店舗内での個別客席としました。和歌山県内の人気飲食店10店舗で構成されたフロアは、30代以上の大人の男女を中心にファミリー層まで、幅広いお客さまに対応できる構成になっています。

**(3) 便利で快適　暮らしに寄り添う美と健康のフロア**

3階には、駅直結という利便性を活かすべく、眼科・内科・歯科・乳腺外科などの専門クリニックと調剤薬局を併設したクリニックモールを形成し、暮らしに不可欠な医療機能を提供しています。また、和歌山県初出店の24時間営業フィットネスクラブをはじめ、お客さまの“美と健康”をサポートしています。

ここまで商業ゾーンを紹介いたしました。併せて注目されているのが、この度移転し、大規模な図書館に生まれ変わった「和歌山市民図書館」です。新図書館は、関西初となる蔦屋書店等を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱が運営指定管理者となる図書館で、1階には、蔦屋書店やカフェが併設されていることが特徴です。また、ワンフロアをまるごとキッズ・ベビーに開放する「こども図書館」には、地域子育て支援室も併設されています。屋上階には人工芝を敷設しオープンエアで読書や飲食を楽しむことができます。一人でゆったりと寛ぎ読書にふける空間や、家族や仲間と本を楽しめるスペース、集中できる学習室等、多様なニーズにあわせた場所が魅力となっており、学生から年配の方まで幅広い層のお客さまが利用されています。

そして、訪れるだけでなく「滞在する」楽しみも提供しています。ホテル棟の4階から12階には、「カンデオホテルズ南海和歌山」が開業いたしました。客室数は約120室で、「ビジネスホテルの価格帯でシティホテル並みのラグジュアリーを」をモットーに、毎日60品目以上の健康朝食ビュッフェ、シモンズ社製の高級ベッド、最上階に露天風呂付大浴場を備え、リーズナブルでありながら機能性とラグジュアリー感を凝縮したワンランク上のスタイリッシュホテルです。

中でも最大のセールスポイントは最上階の露天風呂です。（写真③）紀の川を眼下に一望することができ、特に夕陽が沈む頃はまさに「絶景」を楽しむことができます。開業以来、コロナ禍の影響があるものの想定以上の高い稼働率を維持し、地元和歌山県を中心に多くのお客さまが宿泊されています。

写真③　カンデオホテルズ南海和歌山「スカイスパ」

以上、「キーノ和歌山」の概要について説明させていただきました。開業以来、こうしたユニークなコンテンツが支持され、年間目標である 200 万人を上回るペースで来館者が増加しています。弊社のハウスカードである「ミナピタポイントカード」の会員データによると、大半は和歌山市内のお客さまですが、大阪の泉州地域といった県外、南海沿線からの来館者も少なくありません。コロナ禍の状況が改善されれば、観光客のご利用等も増加し、より広域からお客さまを集客できるものと考えております。

### 3. 今後の取組み

和歌山市では「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」をコンセプトに生活に必要な施設や機能を中心市街地にギュッと集めて、もっと暮らしやすく、愛着のある街となるよう数々の施策を進められています。和歌山市中心部は、人口減少や少子高齢化、モータリゼーションの進展等により、中心部の空洞化が進み課題となっていましたが、その状況を打開すべく、和歌山市では中心市街地へ新しく大学を誘致することで約 1300 人の学生を市内に呼び込み、若者が中心となるような街になるよう推進されています。また、空地の再開発やリノベーションなど、街中の賑わい創出にも取り組まれています。

和歌山市のさまざまな取組みに呼応すべく、当社としましては、「キーノ和歌山」の開業により生活利便性の向上、近隣エリアの居住人口増加に寄与できればと考えており、和歌山市駅周辺の賑わいを周辺エリアへ波及させるべく、街中心部の賑わいづくり施策への参加や、和歌山バスとも連携し拠点を繋ぐアクセス向上についても検討していきたいと考えています。また、和歌山市とは「BRT（バス高速輸送システム）」導入に向け、共同研究を開始することで合意いたしました。IR（統合型リゾート）誘致を念頭に置いたものですが、既存バス輸送への影響なども考慮しながら、観光振興などにも寄与していきたいと思います。当社は和歌山市とまちづくりに関する連携協定を締結しており、街中の活性化に向けて今後も連携を図っていきます。

「キーノ和歌山」が開業してまだ 1 年足らずですが、近隣では新規のマンション開発や飲食店・サービス店等の路面店オープンも数々見られるようになってきました。その傾向を継続させるべく、地元の皆さまとコミュニケーションを密に図りながら、さまざまな開発、ソフト面としてイベント実施等に取り組んでいきたいと考えています。今後、長きに渡って多くのお客さまに愛され続ける「キーノ和歌山」であるよう、尽力してまいります。

寄稿 2

# 加太地域における住民、行政及び大学による地域活性化施策について

## ―成果と今後の課題点

東京大学 生産技術研究所 川添研究室 加太分室

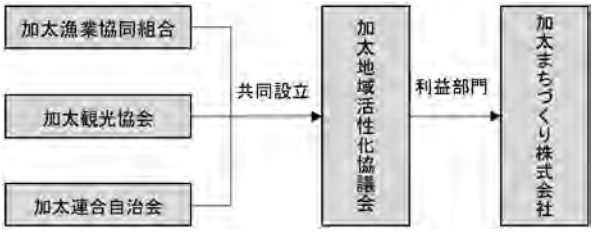
派遣連携研究員（元 和歌山市企画課）／中本　有美

助教／青木　佳子

### 1. はじめに

和歌山県和歌山市は、大阪府に隣接する人口353,900人（2020年10月1日時点）の中核市である。そして筆者が2020年1月から約1年間常駐することになった加太は、和歌山市の北西部に位置する人口2,509人（2020年10月1日時点）の漁師まちである。和歌山市全体の高齢化率は約30％だが、加太においては約49％であり、若年層の人口減少が他の和歌山市内の地区と比べても高く、およそ2人に1人は65歳以上という状況にあり、この地域の課題にもなっている。

加太は漁業と観光のまちであり、これらを活かした持続可能なまちを目指して、地域に住む人が積極的にまちを活性化させるための取り組みを行っている。特徴的なのは、加太漁業協同組合、加太観光協会、加太連合自治会の協働で立ち上がった「加太地域活性化協議会」及び「加太まちづくり株式会社」の存在である。加太地域の活性化についてまち全体で考えることを目的に組織された協議団体である「加太地域活性化協議会」、さらに、加太内で利益を生み出すことを目的に、2015年に設立された「加太まちづくり株式会社」により、住民主体でまちづくりを行っている。このように、加太では行政の力だけに頼らず、立場の違う団体が一つになりそれぞれに協力し合って加太地域の活性化に取り組んでいる。




また、2018 年 3 月に和歌山市と東京大学生産技術研究所が相互協力・連携に関する基本協定書を締結したことで、行政と大学が連携し、加太における地域課題の解決が期待されることとなった。そして、加太まちづくり株式会社と和歌山市の補助の元、2018 年 6 月に、長期間使われていなかった漁師の蔵を改修し、東京大学 生産技術研究所 川添研究室の学術拠点「地域ラボ」が設置された。これを機に、川添研究室から研究者が常駐することで、地域と密接に関わり合いながら、地域活性について住民と一緒に考える取り組みが始まった。

## 2. 加太の現状

前述のとおり加太は高い高齢化率であり、現状として、まちづくりに携わる人も高齢化している。もともと漁師まちであると同時に観光資源が豊富な地域であったことから、漁師の捕る新鮮な魚を使用した飲食業や、加太に宿泊する人を滞在させる宿泊業などの観光業も盛んである。しかし近年は若い人が加太に残って漁師を継いだり、商売をする人が減り、まち全体が高齢化している。このことに対して危機感を募らせ、加太を盛り上げようとする住民が多くいた。そのような機運が高まっていた頃、2014 年から加太地域を対象に東京大学 生産技術研究所 川添研究室が短期的な調査に入ったことがきっかけで東京大学と加太の関係が始まり、さらには和歌山市も東京大学と連携しながらまちづくりを進めていくことになった。

近年、世界的に SDGs が注目される中で、和歌山市も SDGs 未来都市計画を策定しており、加太での取り組みもこの計画に記載されている。SDGs は Sustainable Development Goals の略称であり、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されている。SDGs 未来都市は SDGs の理念に沿った総合的な取り組みを行い、社会・経済・環境を循環させ、持続可能なまちづくりを行う自治体に対して国が選定する。和歌山市は「持続可能な海社会を実現するリノベーション先進都市」として 2019 年 7 月に SDGs 未来都市に選定された。その計画の概要としては、「まちなかでのリノベーションによるまちづくりや加太地区における大学等と連携したエリア再生研究、持続可能な海づくりなど、まち全体の「リノベーション」（＝今あるものを生かして、その価値を更に高める）に取り組み、まちなかと郊外の漁村エリア双方から持続性を高め、市全体として持続可能な社会を目指していく。（和歌山市 HP）」となっている。加太では、かねてから豊かな海洋環境を次世代に残そうと持続可能な漁業のあり方を考えていた。豊かな漁場を存続させるため、捕りすぎない漁業として、一本釣り・刺し網・蛸壺・素潜りといった小規模漁業を行っている。また、森からの栄養分が海に流れ込むことで豊かな海洋環境をつくっていることに着目し、森を守る活動を行っている。この森林整備の一環として、加太観光協会及び加太地域活性化協議会が中心となり、地域住民らがアジサイ植樹を行い、海を守るために森も守るという意識を共有している。これらの活動は、昨今の SDGs の観点からも、持続可能なまちづくりへの取り組みとして期待されている。

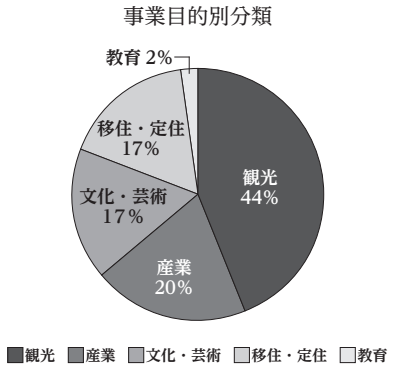
また、加太における行政の施策としては、和歌山市と東京大学の連携協定をより実効性のあるものとするため、2018 年 4 月に東京大学生産技術研究所との連携に係るプロジェクトチーム（以下「PT」という。）を発足した。これは加太地域の課題に対して、課を横断した解決を行うために集められたチームである。縦割りで業務を行うことが多い行政に「加太地域の活性化」という共通の目的意識をもって課題解

決に向き合う取り組みは、これまでの和歌山市の業務の手段としては珍しいものであった。和歌山市における発足当時のPT構成課（総括者：市長公室参与）は、政策調整課、観光課、都市計画課、建築指導課、都市再生課、まちなみ景観課、空家対策課、農林水産課、産業政策課、商工振興課、文化振興課、学校教育課の12課16人で構成された。そこに東京大学 生産技術研究所 川添研究室と加太まちづくり株式会社が加わるという体制となった。今日に至るまで行われた事業の中には、PTで議論され事業化されたものもあれば、検討の末、事業化には至らなかったものもあるが、課の垣根を越えて加太地域の活性化について組織横断的に議論する場となった。

## 3. PTの活動実績

2018年4月25日の第1回目のPT会議を皮切りに、月に大体1～2回のペースで会議を行い、加太のまちを活性化させるためのプロジェクトを提案し、実現可能性について検討を行った。PT会議内で出され、検討されたプロジェクト案は41個あった。ハード面からソフト面まで、様々なプロジェクト案が出され、事業化に向けての検討が行われた。本稿では、41個のプロジェクト案のうち、どのようなものが事業化されたかを調査するにあたって、（1）事業を目的別に分ける（2）実施未実施に分ける、ことから検証を試みた。

### （1）事業を目的別に分類




41個のプロジェクト案のうち、どのような効果を生み出すためのものだったかを目的別に分類した。

全体の割合として、「観光」44％、「産業」20％、「文化・芸術」17％、「移住・定住」17％、「教育」2％の割合となった。1で述べたように加太は漁業と観光のまちであり、プロジェクト案としてあげられるものは「観光」に注目したものが割合として多くなる結果となっている。しかし近年、高齢化が進んでいることもあり、その課題解決を図るための「移住・定住」施策も検討されてきたことから、加太は観光地ではあるが、住み続けることができるまちであることを目指していることが分かる。外部からの移住者を呼び込むためのプロジェクト案を検討することは、持続可能なまちをつくることに必要な施策である。加太の魅力を発信しつつ、定住してもらえるよう空き家を紹介する、起業する人に対する助成を行うなど、観光のような一過性のものではなく、移住者の生活や雇用のサポートができるような体制を整えることは重要である。

### （2）事業の実施状況

| 事業評価分類 | |
|---|---|
| 実施（着手）済 | 11事業 |
| 実施予定 | 19事業 |
| 実施予定なし | 11事業 |
| 合計 | 41事業 |

各プロジェクトの実施状況を「実施（着手）済」「実施予定」「実施予定なし」で分類したところ、「実施（着手）済」11事業、「実施予定」19事業、「実施予定なし」11事業という結果であった（2020年10月時点の評価）。この結果から分かるように、「実施（着手）済」及び「実施予定」を合わせると30事業あり、PT会議で出たプロジェクト案のうち75％程度は「実施済」又は「実施に向けて進行中」といっ

た進捗となっている。「実施予定なし」となった理由として、「財政面・手続面で困難」、「行政ではなく地域主導で行うことになった」、「当初のプロジェクト案から形や規模の変更を行った」といったものがあった。ただ、まちづくりに関するプロジェクトは単発で終わるものではなく、変化するまちに対応しながら中長期的に行っていくものであり、これからも永続的に続いていくものである。今回のPT会議で出されたプロジェクト案の実施・未実施という結果のみをもって評価することはできないが、とはいえ行政側で実施予定がなかったものの、加太の地域住民自らが主導して検討され始めたものもあり、このPT会議で出されたプロジェクト案があったからこそ議論・検討され、実施に繋がったものもあることから、地域と行政と大学の3者が集まり、加太地域の活性化に取り組めたことは非常に有意義なものであったと思われる。

## 4. 今後の課題

PT会議のほとんどの回において、行政の担当課と東京大学の研究者とで話し合いがなされた一方で、地域の人が直接行政と話し合いをする場が設けられなかった。行政側としても、実現可能な事業かどうかがまだ不透明な段階にあるものを地域の人に投げかけることが難しいといったこともあり、行政側の努力が地域の人の評価に直結しづらかった面もある。地域との密なコミュニケーションにより、行政のトップダウンの施策ではなく、地域の人が抱える地域課題を洗い出し、地域と行政両者間の議論を元に、本当に必要なことを施策に反映させることが必要である。また、PTの構成課が多岐に渡っていたことから、全体の事業を網羅して一元管理するようなシステムがあれば、それぞれの事業内容の整合性を見つつ、進捗状況の管理ができたかもしれない。さらに、行政担当者の人事異動により、定期的にメンバーが入れ替わることや、それぞれの担当課が抱える他事業との兼ね合いなどから、課題の捉え方や重要性の感じ方に差異がでやすく、PTの取り組みにおいても課によってその差が生じた。そのため、PTのような横断的な取り組みにおいては、各課同士の負担の調整が重要だと考えられる。

## 5. 今後の展望

まちを存続させるためには、人口が増加している地域におけるまちづくりと、減少している地域におけるまちづくりで、その手法を変える必要がある。そんな中で、地域課題の解決に向けて行政の中でPTを立ち上げ、「加太地域の活性化」という共通目的の下、それぞれの課が課題を挙げ、検討することができたことは一定の成果といえる。また、加太に限らず、和歌山市内における他の地区においても、現状をそれぞれの課が把握し、共通認識を持っておくことは、行政施策を行う上で重要なことである。現在ではPT会議で出されたプロジェクト案について、実施検討段階に入ったことから、企画課（2020年度）が中心となって加太地域の活性化に取り組んでいる。そしてPT会議で出されたアイデア以外で活性化に繋がる事業もあり、加太のまちは変化し続けている。

人口減少期におけるまちづくりは、行政のトップダウン型のまちづくりではなく、その地域に住む住民と協働で行っていく必要がある。お互いが協力し合ってまちの魅力を発見・共有し、それらを伸ばしていくことがこれからのあるべきまちづくりの姿だと考えられる。そしてこれからの地域は、人口を増やすことに加えて、関係人口を増やすことも重要である。日本全体で人口が減少している状況にある現在、少ない人口を奪い合うのはなく、その地域に関わっていこうとする関係人口の増加が望まれる。交流人口から関係人口へ、関係人口から定住人口へと変化することで、その土地への定住が期待できる。加太においては、まずは観光面を強化することで交流人口を増やし、さらには魅力的な

地域にすることで関係人口の創出をも見込んでいる。そして関係人口から定住人口へと繋げていく。PT 会議で出たプロジェクト案はこの流れを創り出すことができるものであった。

まちは日々変化し続けている。まちづくりとは短期的に結果を求めるものではなく、中長期的にそのときに合ったまちづくりを行う必要がある。そのためには、行政も地域を長い目で見続ける必要があり、地域住民もまちづくりに関わる次世代を増やしていく必要がある。この数年間で加太に起こったことは、行政にとっても地域にとっても、和歌山市の明るい未来を目指すための大きな一歩になったのではないだろうか。

# 寄稿 3

## バリアフリー和尚これにあり

紀三井寺　貫主

前田　泰道

平成 29 年 11 月に紀三井寺の住職に就任（晋山）して 3 年半になります。

父であり、先代住職だった前田孝道師は、弱冠34歳、昭和36年に晋山してより遷化する（亡くなる）まで実に 56 年の永きに亘り住職を務めて、寺内外に幾多の功績を残しました。

還暦直前に住職となった私には、それほど遺された寿命は無かろうと観念しつつも、生まれ育ったお寺に、わずかでも恩返しをして逝きたいと思わぬ日はありません。

紀三井寺の長い歴史の中で、血のつながった親子で住職の承継が行われたのは、私が最初です。

私は、昭和 33（1958）年 3 月 18 日に、父・師僧の長男として生まれました。

毎月 18 日は紀三井寺の御本尊・観音様の御縁日で、しかも春のお彼岸の初日（発願日）だったため、「おまえはとても御仏縁のある日に生まれた。坊さんになるべく生まれて来たのだ。」と聞かされて育ちました。

12 歳の誕生日を前に得度式という、僧侶の道に入門する儀式を受けましたが、それは、長髪が許された母校の小学校の卒業式直前で、急に丸坊主となって登校した私を見て、級友達は驚き、私自身も、平凡な人生は歩めないのだと、その時悟りました。

以来、実際はそれほどではないのに、「注目されている」という自意識過剰に陥った私は、何だか地元を窮屈に感じ始め、16 歳になると和歌山を飛び出して下宿し、兵庫県の私立高校に通いました。故郷を離れる為だけに選んだその高校は、キリスト教の高校で、毎週チャペルという朝礼があり、賛美歌を歌い、宗教科の先生のお説教を聞くのでした。

クラスでは、アルファベットの出席番号順に座席が配置され、私の前の席の M 君は、神戸のキリスト教会の牧師さんの息子でした。

牧師の息子と坊主の息子が前後に並んで座っ

ていたのですが、彼は熱心なクリスチャンで、学科の間の休憩時間には、私の方を振り返って、何と宗教論争を挑んで来ました。

仏教は変だ、と言うのです。君はお寺の子らしいが、あの漢字ばかりのお経なるものの意味が判っているのか？

意味の判らぬ物を、ただ唱えるのは馬鹿らしい。キリスト教の聖書は、その点分かり易い。賛美歌も美しい。次の週末、うちの教会に来ると良い。父に頼んで洗礼をしてもらおう。仏教なんか捨てないと天国には行けない。天国の門は狭いのだ……と、寺の長男を相手に、改宗と洗礼を勧めるのです。

僧侶の道から少し距離を置きたいと、いわば逃亡してきた私ですが、こうまでケチョンケチョンに、未だ短き我が半生を否定されてしまいますと、反論の一つもしたくなります。しかし、哀れなるかな、打つ弾がない。仏教の勉強などしたことのない私には、彼の言うとおり、般若心経は唱えられても、その意味を説くことは不可能でした。

エスカレーター式に大学まで行ける高校でしたが、宗教戦争に敗北した私が、仏教を学ぶ為に進路変更をしたのは、その直後でした。

その後、大学で学んだ学問としての仏教は、とても新鮮でした。呪文の様に唱えていたお経には、深い意味が包蔵されていて、それは、迷っては袋小路に入り込んで仕舞いがちな人の歩みを、まるで高みから見て取らせて出口に導く……、ただ信じれば救われるという教えではなく、難儀に直面する者に、冷静で新たな視点を与える「覚醒」の教えだということを知ったのです。

と同時に、こうした「目からウロコ」の教えに、寺に生まれ育った私のような身でさえ隔てられている、大事な教えは覆われている、と感じました。

折角の貴い宝も、それを受け取ることが出来なければ、無いも同じです。

この国には、無数の「仏教徒」が居ながら、その教えの恩恵を肌で感じ、生きる指針としている人がどれほど居られるのか、甚だ心許ないと思えたのです。

大学卒業後すぐに紀三井寺に戻り、先代住職に仕え、副住職として 35 年間奉職している間も、その思いは心から離れませんでした。

さて紀三井寺は、奈良時代の宝亀元（770）年に、唐僧・為光上人によって開基された、古い寺です。東大寺が 752 年の創建ですからその 18 年後。奈良を中心に、少数のお寺が建立され始めた当初の時代です。

そして紀三井寺は昨年、2020 年に開創 1250 年を迎えました。

しかし、昨年はご存知の通り一年中、新型コロナウイルスの大流行・パンデミックに世界中が翻弄されました。

実は、当寺の大事な節目である開創 1250 年に際し、私は大きく 3 つの取り組みを予定していました。

秘仏御開帳、記念法要、そして記念事業とその勧進の開始です。

紀三井寺では 50 年に一度、秘仏となっている御本尊・十一面観世御菩薩像と、同じく並んで秘仏である千手観世音菩薩像を御開帳して、一般に公開するのを慣例としています。

なるべく大勢の人にご縁を結んで頂きたく、今回は春秋二回、それぞれ百日程の期間を定めて御開帳を実施しましたが、春の御開帳の最中だった 4 月初旬から 5 月末まで、疫病に掛かる緊急事態宣言が発出され、その間は、人を集めてしまう御開帳は停止せざるを得ませんでした。が、秋は概ね順調に行われ、疫病下にもかかわらず、2 万人余の方が、秘仏の二尊、観音様方と出逢われました。

（昨年中止せざるを得なかった期間、4 月 8 日～ 5 月 29 日は、今年の同期間「よみがえり

秘仏御開帳」として、延長実施されます）

児童のお練り行列等を予定していた記念法要は、疫病下、断念せざるを得ませんでした。

最後は、記念事業と勧進の開始です。

紀三井寺が出来てから、1250年目となるこの年を起点として、次の50年を見据えて、どんな事業を行うべきか、35年間副住職として寺の業務に携わりながら温めてきた、様々な思いを練る内に、それらが一つの言葉に集約され得ることが見えてきました。それは障害（障碍・障礙）を取り除くという意味の「バリアフリー」という言葉です。

まずは、「御参詣のバリアフリー」。

紀三井寺の正面には、231段の石段が待ち構えていて、歩行困難な参詣者を拒んでいます。この石段は、紀伊国屋文左衛門が、玉津島神社の宮司の娘・かよと出逢い、出世のきっかけともなった結縁坂であり、厄年の段数を踏み越えることで厄除けにもなるとされる「結縁厄除坂」ですが、あの石段の為に参詣は諦めるという方も多いのです。

総代会では、裏参道にある車道の更なる整備案も出ましたが、手狭な山上駐車場の拡張は困難であり、さらに地元の活性化の為には、土産物店が並ぶ門前町を通って来山される参詣者が、楼門から本堂まで至ることが出来る、高低差40メートル強のバリアフリー施設が必要との結論に至りました。

まず初年となる昨年、2020年には、トイレのある山上駐車場から本堂まで、高低差11メートルのエレベーターの建設に取りかかり、11月に竣工しました。

現在、この山上駐車場の高さまで、一番下の楼門から達する高低差31メートルのケーブル施設の計画に着手しており、2021年度内の完成を目指します。

次に、「景観のバリアフリー」です。

紀三井寺の宝は、何でしょうか？　観音様だという人も、早咲き名所の桜、と言う人も、寺名の起こりの「三つの井戸」という人もおありでしょう。

しかし、紀三井寺を訪れた方がまぶたに焼き付けて帰って行かれるのは、境内から和歌の浦を望む景観です。日本遺産「絶景の宝庫　和歌の浦」に登録された景色は、古来無数の人々が当寺を訪れて愛でた景観なのです。

海の無い奈良の都から行幸された聖武天皇が輝く海面を眺めて「明光浦（あけのうら）」と名付けたことに始まる和歌の浦は、やがて和歌山という地名の起こりになります。

『養生訓』を書いた貝原益軒は、松島、厳島、天橋立の日本三景と比べても、この景色には敵わないと絶賛しています。

文豪・夏目漱石は、主人公達が和歌の浦の夕景を眺める紀三井寺境内を、『行人』という小説のクライマックスの舞台装置に採用しています。

大正時代、摂政宮時代の昭和天皇が当寺に行幸された際の消息を伝える記録には「紀三井寺境内より瞰下し給えば、和歌の浦の全景、御一望の中に収まり、長汀曲浦の続く限り、金波銀波ゆるやかにくだけ、さらに又遠く白帆の行衛、煙波の間に消ゆるあたり、阿波、淡路の島山、詩歌の夢と浮かぶ景勝を御興深く御展望あらせられたるやに拝せられた。」とあります。

建物が増え、道路や線路が走り、古の景観とは異なるとはいえ、空気の澄んだ晴天には、和歌の浦の近景と共に四国の山々も遠望できる絶景、特に夕景は、未だ眺める者の心を捉えて離しません。様々な難儀に疲れた心を癒やす力さえ有していると自負しています。

この当寺の宝・景観も現在、仮設舞台や樹木によって大きく遮られていますので、遮蔽しているものは解体・伐採して、今秋までには、昭和天皇のご覧になった景観の広さを取り戻した

いと考えています。

さて、景観を取り戻して境内の魅力を積み増し、昇降利便を高めて参詣者の御来山頻度を高めることが出来たとしても、その先にある障碍を取り除かねば、今回の記念事業は、意味を成しません。

それは、あの高校時代からずっと心の底に澱のように沈殿した思い、仏教の貴い教えが妨げられ、覆われていて、寺に詣れば手を合わす人達にも届いていないということです。

参詣や景観といったハード面でのバリアフリー事業の先に、ソフト面での障害除去事業、「伝道のバリアフリー」が待っていて、これが私の最後の仕事となると考えています。

新型コロナウイルス禍は、伝道にとっては強敵で、紀三井寺御信徒の関わる様々な法話会は中断を余儀なくされています。が、毎朝の勤行と一口法話をユーチューブ配信したり、18 日夜の勤行をライブ配信したりしてリモート伝道を取り入れています。

が、やはり布教では、同じ場を共有する空気感が殊更に大事で、重文の仏像拝観を取り入れた布教伝道の出来る「コロナ後」を見据えて、今その案を練っております。

考えてみると、人類の歴史は、バリアフリーの軌跡です。ある範疇の人々を阻む「ベルリンの壁」を壊して、歴史は進展しました。

身分制度を打ち破る試み、選挙権を広げる闘い、人種差別撤廃運動、男女の性差別をなくす営み……。全て、障壁を温存することで特権を維持したい勢力と、障壁を取り払うことで、自由と平等の範囲を広げようとする勢力のせめぎ合いであり、全て後者が命がけでバトンをつないで成果を上げて来たのです。

バリアフリーこそ、賢者の指針です。

さもあれば「バリアフリー和尚」として終身任期を全うすることが、私の今の夢です。

もっとも、坊さんがこんな夢を語ること自体、悟りを妨げる煩悩、バリアなのかもしれませんが……。

寄稿 4

# 絵葉書収集の半生をふりかえって

古書肆 紀国堂

溝端　佳則

私が絵葉書収集に手を染めることとなった原点は、16 歳の時高校の図書館で見た歴史図書社版『紀伊名所図会』（以下「名所図会」という）4 冊に出会ったことであった。元来、日本史には小学校以来非常に興味をもっていたが、教科書で習う歴史にはなにかしら物足りなさを感じていて、安藤精一氏の『和歌山県の歴史』を読んで郷土の歴史に関心を持っていた時期でもあった。図書館で本を借りることもなかった私であるが、こればかりは別であった。紀伊国の名所・旧跡、歴史、人物、風俗、特産物その他、多少の誇張はあるものの生き生きとした挿絵を交えての記述は、たちまち私を虜にしたのであった。なかでも驚いたのは、和歌山城下の町の様子が克明に描かれていることであり、見たこともない江戸時代の和歌山市内の風景に驚きの連続であった。とりわけ驚かされたのは当時庶民が入ることができない和歌山城の内部（鶴の渓）が描かれていることであった。（図 1）図書館で名所図会を借りた私は、その頃宮井平安堂でコピーするには一枚 50 円だったので、たまたま手元に藁半紙が大量にあったのを幸いに名所図会の記述を好みにまかせて鉛筆で書写し、書き溜めたのを和綴じのようにミシン糸で綴じて悦に入っていたのが懐かしく思い出される。それは学校の勉強そっちのけの所業であった。

さて、大変興味深い挿絵を見るにつけ、まず

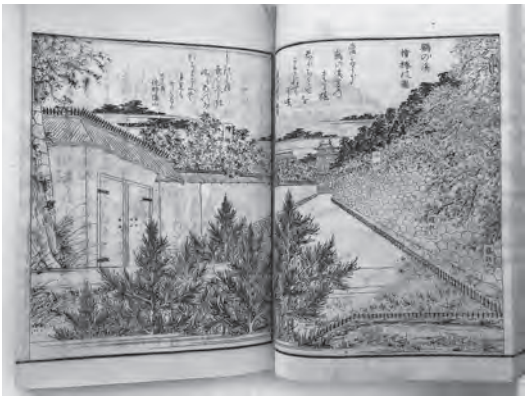


図 1　鶴の渓

思ったことはそこが今どうなっているかであった。大きく変貌している場合もあるだろうし、わずかでも面影が確認できれば面白いだろうし、さらには絵図の世界により近い時代の写真があれば、江戸時代と現在をつなぐものとしてもっと面白いだろうとも考えたのであった。しかし、当時はそんな写真に出会うはずもなく、ましてや絵葉書という存在を知らない私は、それからしばらくは大学生時代を通じてこのような思いは封印せざるを得なかった。絵葉書にはじめて出会ったのは 1983 年の夏であった。和歌山市内の古書店「吉井書店」に江戸時代の刊本『紀伊国名所図会』が揃いでガラスケースに入っていて、全 23 冊で 39 万円の値がついていた。どうしても手に入れたい私は、社会人二年目の夏のボーナスだけではとても足りず、貯金をはたいて購入したのであったが、そのときに店の隅に 1 枚の絵葉書を発見し、ついでに購入したのであった。それは有田川の中流にあった「鮎瀧」の写真（図 2）で、名所図会に描かれている絵図と似通った構図（図 3）であったのと、そのくだりを藁半紙に書写したことで鮮明に覚えていたからであった。ただ、今にして思えば、鮎瀧の古写真などはそうざらに出会うものでもなく、まして名所図会の挿絵と同じような構図だったのだから、こんな写真があるならもっと他にあるかも知れないと考えて他を探せば良かったのにと悔やまれてならない。もっと早く本格的に収集を始めるべきであったのであるが、当時の私の考えとしては写真絵葉書はあくまで印刷物であるという思いが強かったので、重きを置くことが出来なかったのである。それでも、古書店通いの中で地域の絵葉書を見つけた折はよく入手していたものである。しかし、その頃目にしたものは昭和戦前期の和歌の浦の不老橋・観海閣・東照宮・玉津島神社などの観光みやげのごくありふれたものばかりであった。これらの絵葉書を写真アルバムに三角コーナーでレイアウトして楽しむ程度にとどまっていたのであった。

転機は古絵葉書をはじめて目にしてから 7 年ほど経過した 1990 年頃のことであった。ある人物の紹介で絵葉書を中心に古い時代の紙モノ資料を取り扱う業者の方を紹介して頂き、一気に大量の絵葉書を見る機会に恵まれたのであった。それまでは絵葉書と言えば名所・旧跡などを取り上げたありきたりの印刷物としか考えていなかったものが、大量の絵葉書を見るにつけ、明治末期から大正・昭和戦前期の絵葉書には和歌山県内の各地の街の風景や建造物、学校、交通、軍隊、神社仏閣、祭礼、産業、災害などとありとあらゆる種類の絵葉書が写真資料として残っており、しかも絵葉書でしか見られないものが圧倒的に多いため、これは是非にもまとめて残さなければならないと思ったのであった。又、2002 年頃と記憶するが、日本絵葉書会という絵葉書収集家の会に加入させて頂き、当初は二ヶ月に一回の開催であったが、程なく毎月の開催となり、ここ十年程は毎月欠かさずに参加しているが、その中には全国的にも名を知られたコレクターもいて、これらの方々から絵葉書の奥深い世界を知ることになり、ますます深みにはまっていったのであった。（日本絵葉書会からは関西絵葉書研究会という会も派生して今日に至っている。）絵葉書会に加入した当初は軍隊ものの絵葉書も収集の対象にしており、各地連隊の絵葉書も所有していたが、

図 2　鮎瀧

和歌山ものの絵葉書を充実させるため、こちらの方は早くに断念して処分したことは賢明な判断であったと思う。以来、和歌山県内に加えて紀伊国であった三重県北牟婁・南牟婁郡と旧紀州藩領であった伊勢の松阪・田丸・白子及び大和吉野郡内の鷲家・越部・土田の三ケ村の風景絵葉書を収集対象として現在に至っている。これらのうち、田丸と吉野郡の三ケ村に関するものは未だに入手していない。

現在、手元には約一万五千枚の絵葉書があり、これらを概観すると各地の写真館や書店・雑貨店などが発行の担い手となっていたことが知られる。（図 4 は、和歌山県域内で発行部数が比較的多いものを取り上げたもので、発行元数としては全体のごく一部である。）地域に密着した発行元が、それぞれの地域の特色ある風景絵葉書を残すことになったのである。地元ならではの視点で被写体を選定し、これが現在の私たちにとって貴重な歴史資料となったのである。これらの発行元のうち、新宮町の久保写真館及び東雲堂、和歌山市の津田萬壽堂はそれぞれ「紀伊熊野百景」「熊野名勝」「紀伊百景」という大部のシリーズものを発行している。私は早くからこれらを収集の対象にしていて、どこまで集め切れるかを収集の進捗のひとつの指標としてきたが、まだまだ道半ばである。とりわけ、「紀伊百景」は一番早くに注目し、その全体像を解明したいと考えていた。というのも、私の地元の和歌山市の風景が多く、撮影にあたった写真師の技量がよく、加えて紙質が良く印刷のノリも良かったからであった。親勇之進という人物が撮影者であったことが判明したが、詳細は不明である。これらのシリーズものは、いずれも明治末年の発行であるが、印刷方法はコロタイプ印刷という細部の拡大確認に耐えるもので、例えば商店の小さな看板文字が確認できるなど、写真を再現する方法としてはすぐれた印刷法である。加えて印画紙プリントによる写真は経年劣化により、画像が薄くなってゆくが、コロタイプ印刷により印刷インキに置き換えられた画像は劣化することなく、写真のように退色することがない。私が追い求めて来た風景絵葉書のほとんどは、コロタイプ印刷によるもので、歴史遺産ともいえる過去の風景がこのような手法で残されたことに改めて感謝せざるを得ない。

風景絵葉書を眺めていて、まず思い浮かぶのはその風景がいつの時代のものかということであろう。大雑把には絵葉書の表（切手を貼って宛名を書く側）の書式の様式や、紙質、印刷インキの色合い、消印の日付、キャプションの印刷方式、押印された記念スタンプの種類、写っている人物の服装や髪型、建造物の様式など、数え上げればきりがない程であるが、小さな絵葉書からたくさんの情報を引き出して読み解いていくのが、なんといっても最大の楽しみである。又、和歌山での絵葉書の作成年代であるが、いつから作成されはじめたのかということも気になるところである。絵葉書一般でよく言われるのは、明治 37 ～ 38 年（1904 ～ 1905）の日露戦争時に逓信省が発行した戦役紀念絵葉書が非常な人気を博し、これが爆発的な絵葉書ブーム巻き起こしたということである。そのブームは和歌山にもやって来たようで、明治 38 年 4 月 14 日付け『紀伊毎日新聞』に和歌山市本町 1 丁目津田書店（萬壽堂）の広告が掲載されており、「和歌山名所絵はがき・一

図 3　鮎瀧

組十二枚・定価二十銭」となっていて、今私が確認できる和歌山での最古の絵葉書発行の広告記事である。和歌山県立図書館の司書を勤めた喜多村進は、和歌山で最初に絵葉書の発行をしたのは津田萬壽堂であると述べているが、これを裏付けるようで大変興味深い。さらに同年 4 月 29 日には「和歌山絵葉書交換会」の広告があり、5 月 6 日の交換開始を告げている。遅れて 7 月 26 日には松本英文堂（和歌山市駿河町）の「絵葉書各種」の広告記事が見られる。和歌山でも全国的なブームを受けて風景絵葉書の製作・販売に乗り出した業者が出てきたことが伺える。因みに先の津田書店の広告には、和歌山城をはじめ 12 枚の絵葉書を写した地点を示す目次があり、その中に「三、和歌高松」というとても気になるものがある。というのも電車開通の 4 年前に作成された高松の名所絵葉書であれば、高松茶屋が被写体になっている可能性が高いからである。高松茶屋については、名所図会に描かれた茶屋の絵図や『和歌浦物語』での記述は知られているが、それ以外には記録したものは今のところ見当たらない。わずかに『和歌山と和歌浦』に電車開通によりその線路敷地となって廃業する直前の様子が記録されているが、収集家としては是非とも写真で確認したいものである。高松茶屋を写した絵葉書はどうもあるらしくて、そのキャプションには「投げ頭巾の松」となっていて茅葺屋根の建物の脇に人物が立っているというのである。このような話を聞くにつけ、思いは募るばかりである。

高松茶屋の絵葉書のようにその存在が判明しているにもかかわらず、未だ発見出来ずにいるものはかなりの数に上り、一方でそのようなものを探し出すうちにも全く未知の図柄の絵葉書に出会うことは再々で、そのような繰り返しで我が半生の 30 年が過ぎ去った。底知れない絵葉書の世界にどっぷりとつかって、その中から紀州ものの絵葉書を選んだとはいえ、やはり奥深い世界に変わりはない。収集事は個人の力のみでは到底なしえないことであり、今後共皆様のお力をお借りしながら、残りの人生をかけて収集の充実に努め、後世の人からよくぞこれだけ集めて置いてくれたと言われるような形にしたいと心より念願している次第である。

図 4

| 所在市町 | 発行元名 |
|---|---|
| 和歌山市 | 大正写真工芸（印刷）所<br>津田書店（萬壽堂）<br>松本英文堂<br>加太藤本写真部 |
| 橋本市 | ツハダ写真館 |
| 御坊市 | 釜中日新軒 |
| 田辺市 | 池田写真館<br>山澤朝日堂 |
| 新宮市 | 久保写真館<br>東雲堂 |
| 紀の川市 | 光文堂<br>吉川写真館 |
| 岩出市 | 桂文館 |
| 湯浅町 | 松本写真館<br>小西写真軒 |
| 由良町 | 米與商店 |
| みなべ町 | 橋本写真館 |
| 那智勝浦町 | 入海商店 |
| 串本町 | 丸す商店<br>浅利書店 |

寄稿 5

# 政治とカネの問題 何はともあれ まずは透明性を

朝日新聞和歌山総局長

築島　稔

2020年に続き、今年も新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。まさに生活に直結する重要なニュースであり、新聞社としてもその取材、報道を避けて通れません。ただ、次々とコロナ関連のニュースが相次ぐなかでも、軽視してはいけないと思っている問題があります。政治とカネの問題です。

政治にカネがかかる、ということを頭から否定するつもりはありませんが、ならば（現在の法律が抜け道だらけだという批判があるのも承知していますが）まずはせめてルールを守って透明性を確保し、その説明責任を果たしてほしい、と強く思います。政治家はだれか特定の個人、集団、団体のために働くのではなく、広く、あまねく人々のために働くのが本分なのですから。

**▽ドラマ半沢直樹でも**

昨年放送されたドラマ「半沢直樹」はご覧になりましたか。高視聴率が続き、最終回の平均視聴率は関西地区で34.7%をたたき出しました。作品中の与党幹事長が、地元の利権に絡む裏金を海外の銀行の隠し口座に蓄えていて、最終回ではそんな事実を主人公の銀行員らが突き止めました。

悪事が明るみに出て「おかしなことはおかしい」とただされる世界へのあこがれ、というか願望が、多くの人々の中にあるのだと思います。わたしもそんな一人です。そうした利権で政治家が私腹を肥やすということはもってのほかだと思っています。

こうした話は、ドラマの中だけではありません。1月には、衆議院議員だった吉川貴盛・元農林水産相＝問題表面化後の昨年12月に議員辞職＝が鶏卵生産・販売大手の前代表から大臣在任中に受け取った現金500万円が賄賂にあたるとして、東京地検特捜部が吉川・元農水相を収賄の罪で在宅起訴しました。

端緒は、衆議院議員の河井克行・元法相と参

議院議員だった妻＝今年２月に議員失職＝が公職選挙法違反（買収）の容疑で逮捕された事件の関連先の捜索だとされています。このほかにも、昨年にはカジノを含む統合型リゾート（IR）事業をめぐり、秋元司・衆議院議員が収賄罪などで起訴されました。

**▽絶えない「政治とカネ」問題**

吉川元農水相、河井元法相のほかにも、2012年12月に第２次安倍政権が発足して以降、多くの閣僚が政治とカネをめぐる問題で相次いで辞任しました。小渕優子･経済産業相(政治団体をめぐる不明朗な資金処理問題で14年10月に辞任）▽松島みどり・法相（似顔絵入りの「うちわ」を選挙区内で配った問題で14年10月に辞任）▽西川公也・農林水産相（補助金交付が決まった企業からの寄付問題で15年２月に辞任）▽甘利明・経済再生相（自身や秘書が建設会社から現金を受領していた問題で16年１月に辞任）▽菅原一秀・経産相（選挙区内での寄付行為問題で19年10月に辞任）……。

現実の世界で次々と起こり､悲しくなります。そして、そうした状況から「仕方ないものだ」と諦めてしまい、怒りも感じなくなってしまうのではないか、麻痺してしまうのではないか、という思いがもたげてくることにも恐ろしさを感じることがあります。確かにコロナ問題など国会が議論するべき喫緊の大きな課題はありますが、こうした政治とカネの問題を軽視していいことにはなりません。コロナが収束した後でもかまいません。しっかりと国会で議論され、是正されるべき問題だと考えています。

政治とカネにまつわる問題は今に始まったことではありません。私が学生だった30年ほど前、値上がり確実とされる未公開株が政財官界に安値で譲渡されたリクルート事件や、東京佐川急便による５億円ヤミ献金などで、政治不信が高まりました。後に続く「政治改革」の原動力となったものも、政治とカネの問題に対する国民の憤りととらえることができると思います。有権者一人一人が厳しい目を向けていかなければなりません。

**▽政治資金収支報告書**

そうした動きの成果物の一つが、政治資金収支報告書といえます。「政治にはカネがかかる」と言われるなか、政治家の収支の財布を一つにして、どのような収入があり、どのような支出があるか､きっちり公開して透明化しましょう、というのが趣旨です。政治資金規正法では、政治資金の収支を公開することで「政治活動の公明と公正を確保し、もって民主政治の健全な発達に寄与することを目的とする」とあります。民主政治の根幹の一つとも言えるのではないでしょうか。

こうした収支報告書はだれでも見ることができます。総務省へ届け出ているものは総務省のホームページで閲覧できますし、和歌山県選挙管理委員会も、県内の政党支部やその他の政治団体から提出されたものをホームページでも閲覧できるようにしています。

収支報告書には政党からの交付金や寄付といった収入から、人件費を始め、事務所の家賃や電気代、交通費などの支出も記載されています。ちなみに県選管に提出された2019年分についてみると、政党支部は103団体（自民92、共産４、公明４，社民２、維新１)、その収入総額は10億4921万円、支出総額は６億9547万円でした。選挙関係費の支出が前年に比べて増えていることも、継続してみているとわかります。

政治にカネをかけるな、と無責任に切り捨てることはできません。ですが、収支が明らかになり、その収入や支出に妥当性があるのかを広く市民が判断できるのならば、それにこしたことはありません。

また、政党に所属する政治家の資金団体に

は、党を通じて「政党交付金」の一部が入る形になっています。政党交付金は、国民一人あたり 250 円分を基準として国の予算が決まっています。日本共産党は制度に反対して交付金の申請をしていませんが、他の主要政党では、その交付金が活動費として党の支部（政治家）などに送られるのですから、収支報告書の公開は、ある種税金の使い道を確認する手立てでもあります。

### ▽取材の土台に

新聞記者はこの政治資金収支報告書を調べることから取材を始めることがよくあります。5 万円以下の寄付をした人の氏名を書かなくてよいなど、ルールには抜け穴があるという指摘はあるものの、政治家がどんな団体や個人から寄付を受けているかがわかる可能性もあり、政治家周辺のつながりがすけてみえます。また、いつ、どこでどんな会合があったのかわかる場合もあります。

記者時代には、記事として結実しなかったものの、新聞社に寄せられた情報やこうした報告書をめくって追いかけたニュースもありました。その副産物として、関係者が政治資金規正法の限度額を超える寄付を政党支部にしていた、といったニュースを掘り起こしたこともありました。

政治家に関するお金の使い道を知るには、ほかにもあります。たとえば政務活動費です。和歌山県では、県から県議に対して月額 27 万円が支給され（残りがある場合は返還されます）、その支払い内容についても収支報告書が公開されています。朝日新聞和歌山総局でもこの報告書などを調べて、記事にしています。

昨年 10 月 23 日付の紙面では「政活費、その支出妥当ですか？」という見出しで紹介しました。政活費で「江戸川乱歩名作選」が買われていたり、参加したとされる 8 回の講演会の内容が一言一句同じ記述だったり……。

こうしたことを指摘できるのも、まず、収支の公開というステップがあるからです。

ここを政治家がないがしろにすれば、有権者からのチェックには、さらに莫大な労力を要します。政治活動にかかわる出費として、使い道について突っ込みを入れたいものがあれば、そこで突っ込める。それはこういった収支報告書に政治家側が誠実に資金の動きを記録して、公開して初めて可能になります。カネがかかること自体の是非について様々意見があるでしょう。ですが、それはひとまず置いておいて、まずは実際に動いた金の動きをきちんと記録して、透明化することが、よりフェアな社会をつくるために不可欠なのではないでしょうか。

### ▽法の趣旨、首相もないがしろ

ですが、そうした収支報告の記載がないがしろにされ続けています。昨年末には、この国のトップがからむ政治資金規正法違反事件も摘発されました。安倍晋三・前首相の後援会が「桜を見る会」の前日に開いていた夕食会の費用を安倍氏側が補填していたにもかかわらず、政治資金収支報告書には記載されていませんでした。国会で何度問われても首相が否定していたことが、東京地検の調べで事実とわかり、安倍・前首相の秘書が略式起訴されました。（東京簡裁が罰金 100 万円を命じ、秘書は即日納付しました。）

安倍前首相は、首相時代に補填を否定してきた国会答弁について「事実に反するものがあり、政治への信頼を損なうこととなってしまった。国民、与野党すべての国会議員に深くおわび申し上げたい」と謝罪しました。ですが、会計処理については「私が知らない中で行われていた」と釈明しました。

「桜を見る会」の問題が浮上し、国会でも質問が相次いだとき、部下が本当のことを言っているのか、言っていないのか、安倍前首相がどれだけただしたのかもわかりません。ホテル側

に問い合わせれば、ご本人に補塡の事実を教えないことなどありえないわけですから。報告書に記載しなければならない事実を報告書に記載しない、ということはまさしく違法です。そして刑事責任は問えないにしても、道義上の責任は安倍前首相に重くかかっています。安倍前首相も「道義的責任を痛感している」と会見を開いて陳謝しましたが、説明責任を尽くしたとも言えません。

刑事的に罪をおかしたのは秘書だったかもしれません。ですが、そうさせたのは上司である安倍前首相です。部下が刑事事件に問われ、その行為が上司をかばうためのものであれば、通常の企業でもその上司の責任は非常に重いでしょう。

もう「秘書が」という釈明ができないよう、ぜひ国会議員のみなさんに法改正をしてもらいたいものです。責任は「ある」ものでも「取る」ものでもありますが、「果たす」ものでもあります。安倍前首相が先頭に立って、より透明性を高めて政治家自らが律することのできる状況に変えることで、責任を果たしてもらいたいと思います。

### ▽収支報告書こそデジタル化を

実際の収支が国民の前につまびらかにされていなかったという事態を、政治家にもっと重く受け止めてほしい。「誤って記載していなかった」ではすまされません。収支報告書の記載の軽視は、有権者軽視につながっていると考えます。

安倍前首相陣営の食事会の費用補塡が買収にあたるのではないか、といった指摘があるのももちろん承知しています。収支報告への記載漏れよりももっとおかしな状況だ、という批判についても理解できる部分はあります。ですが、あえてそこに目をつむって、収支報告書に実際の収支を記載しないということに焦点を当てて考えてみましょう。その行為は政治家と有権者をつなぐ糸を政治家側が進んで切り、有権者を捨て去る行為になると私は考えます。それだけでも非常に重い裏切り行為に思えてならないのです。

私たちも、政治家のこうした行為が「有権者を軽視している」ともっと憤り、その憤りを政治家に対する圧力に変えていかなければならないと思っています。朝日新聞和歌山総局も引き続き、こうした視点で政治とカネの問題の取材を続けていきたいと思います。

### ▽それぞれが責任を果たす

カネを使うな、とはいいません。せめてきちんと収支を明らかにして国民に明らかにすることの大切さを自覚してほしい。現在の菅政権で強く押し出されているデジタル化も活用して、ぜひ政治家が率先して収支報告の透明化を進めてほしいと思います。デジタル 1 本にすれば、今回のように恣意的に記載しないことは難しくなるでしょうから。こうした取り組みは責任を果たす、一つの形になると思うのです。

そうしてつまびらかにされた収支について、おかしいと思えば国民が指摘し、さらに改善されていくことが大切です。そのためにも私たちは政治家のそうした部分を不断に監視し続けなければなりません。その一端として、報道記者がきちんと監視を続けることが重要だと言うことも改めて肝に銘じたいと思います。それが新聞記者、報道機関の責任を果たすことにつながると思います。

民主主義を支えるにはコストがかかりますが、そうしたコストを疎んじた先にある社会は、フェアな社会からはほど遠いものになるのではないでしょうか。

（文中の肩書等は 2021 年 3 月 24 日現在）

# 研究成果報告 1

# アンケート調査の自由記述文章を“定量分析”

（一財）和歌山社会経済研究所 主任研究員

長谷川　強

## 1. はじめに

アンケートにおける自由記述の設問に対する回答は、回答者の「生の声」が反映されており、非常に有用である。一方で、自由がゆえに内容が捉えにくく情報量も多いことから、大まかな傾向（がどれだけあるのかを含めて）をつかむにも、全ての記述に目を通す必要があり、多大な労力を要する。そのため、分析結果の質は分析者の集中力、記憶力などの能力に依存するところが大きく、分析者の主観が入り込む余地も大きい。逆に言えば、それらを克服し、自由記述を少しでも楽に、早く、高精度に、かつ客観的に分析できれば、アンケート活用の場面が広がると考える。

Amazon での本の検索時の「この商品を買っている人は、この本も買っています。」と紹介されるが、これは過去の購入データからユーザー購買行動の類似性、または商品間の共起性（共に起こる商品）を分析し、対象者個人の行動履歴を関連づけることで商品を提示するという手法を用いている。この共起性は、アンケート結果においても分析に有効な指標であり、事実の裏付け、新たな知見の獲得などにつなげられると考える。

近年では ICT 技術の発達により、文章をパソコンで処理する技術が手軽に利用できるようになった。そこで、それらの技術を自由記述等の文章の分析に用い、実用性について検証する。

## 2. 分析の概要

### 2.1. 分析の流れ

本稿の目的は、「アンケートにおける自由記述」のような複数の文書（ここでは「文書群」という。）の全体的な傾向を把握・説明するために、文書群として特徴的な単語及び単語間の関係（「共起度」、後述）を抽出することである。その流れを図 2.1.1 に示す。

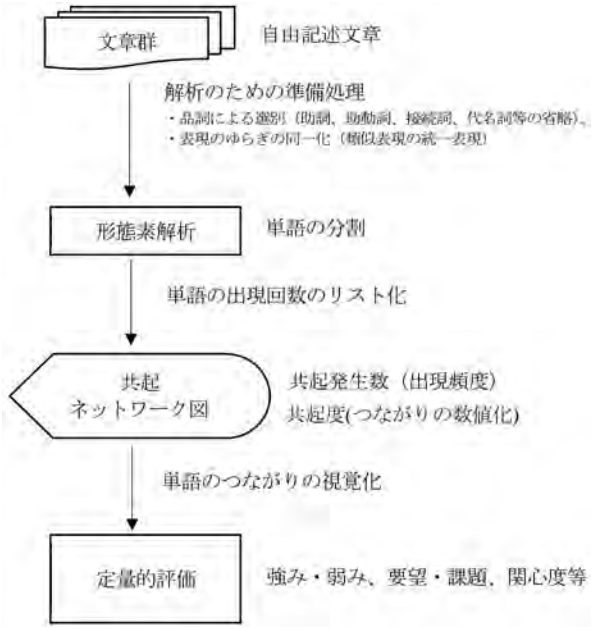



図 2.1.1　自由記述文章の分析の流れ

## 2.2. 形態素解析

### 2.2.1. 形態素解析とは

形態素解析とは、普段生活の中で一般的に使っている言葉、つまり「自然言語」を形態素（形言葉が意味を持つまとまりの単語の最小単位にまで分割）する技術のことである。

自然言語による文章を分析するには、まず文章を単語レベルに分割する必要がある。英語をはじめとする多くの言語は、単語の区切りにスペース（空白）が用いられるが、日本語の文章は基本的に句読点及び改行以外の明示的な単語の区切りがない。そこで、それらを文字の並びから単語の区切りを推測するという作業が必要になる。図 2.2.1 に短文を形態素解析する例を示す。

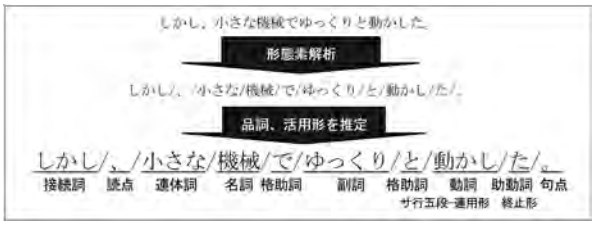



図 2.1.1　自由記述文章の分析の流れ

「しかし、小さな機械でゆっくりと動かした。」という文章を形態素解析すると、「しかし /、/ 小さな / 機械 / で / ゆっくり / と / 動かし / た /。」のように分割される。

こうして形態素解析により最小単位になった単語を、辞書（データベース）などの情報と照らし合わせ、それらの単語の品詞の種類、活用形の種類などを割り出していく。実際の活用事例は 3.3 で述べる。

### 2.2.2. 形態素解析の歴史

形態素解析という技術は 1970 年代前半、日本語ワードプロセッサに搭載される仮名漢字変換装置の開発において着目された 。その後 70 年代後半に同製品が実用化され、発売に至った。このころから 1980 年代にかけては、文法と制約に基づく「合理的」な解析であった。例えば、名詞→格助詞→動詞（などの活用品詞）語幹→助動詞という並び順が多い、などの文法的な規則と、文節数が最小になるような分割の仕方を採用する（文節数最小法）などの制約を組み合わせて解析を行っていた。

1990 年代はインターネットの商用利用開始とパーソナルコンピューターの性能向上により、情報量と情報処理能力が大幅に増大した。それに伴って、形態素解析に用いられるデータベース、すなわち文章と解析結果がセットになった見本「コーパス」の充実と、これを処理する解析エンジンの高度化及び解析アルゴリズムの多様化がもたらされた。このような情報量の多さを活かした「経験的」な解析は、これまでの「合理的」な解析の限界を克服するものとして主流となった。

2000 年代になると、形態素解析のノウハウが MeCab、Chasen などオープンソースプログラムとして公開され、研究者以外のユーザーが利用できるようになった。それに伴い、検索エンジンの最適化、テキストマイニング、他の自然言語処理といった応用が盛んになった。

### 2.3. 共起ネットワーク

共起ネットワークは、「どんな言葉が多く出てきていて、どの言葉とどの言葉が一緒に使われていたのか」を探るためのもので、個々のコメント間の単語の共通性を共起度と共起頻度で俯瞰されるネットワーク図により可視化し、特徴を読み解くことが可能となる。

以下にサンプル回答群を示す。

(1) 今度は温泉と食事に行くのを楽しみにしている。
(2) 温泉に入った後の酒は楽しい。
(3) 温泉には行きたいが、暇がない。
(4) 旅行したいなあ。

これらを形態素解析すると、

(1) 今度 / は / **温泉** / と / 食事 / に / 行く / の / を / **楽し** / み / に / し / て / いる /。
(2) **温泉** / に / 入っ / た / 後 / の / **酒** / は / **楽しい** /。
(3) **温泉** / に / は / 行き / たい / が /、/ 暇 / が / ない /。
(4) 旅行 / し / たい / なあ。

ここで、「温泉」、「楽しい」、「酒」という単語に注目し、共起発生数、共起度を求め、共起ネットワーク図を作成する。

#### 2.3.1. 共起の発生

「共起の発生」とは、2 つの単語が 1 文に出現することである。「温泉」「楽しい」「酒」という単語に注目すると、サンプル（1）から（4）においては、「温泉」と「楽しい」が 2 回、「温泉」と「酒」、および「楽しい」と「酒」が 1 回である（表 2.3.1）。

表 2.3.1　形態素の発生数と共起発生数の関係

| 回答群 | 温泉 | 楽しい | 温泉 | 酒 | 楽しい | 酒 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| (2) | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| (3) | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (4) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 共起発生数 | 2 | | 1 | | 1 | |

#### 2.3.2. 共起度

文章群中における単語間の共起度はさまざまな捉え方があるが、ここでは Cosine（コサイン）の方法を用いる。これは、2 つの単語の発生数をベクトルに見立て、その「角度の余弦」$\cos\theta$ を「共起度」と定義し、単語間の「接近度」を測定する方法である。

表 2.3.2 に示すように二つの単語ベクトルとして、

*「温泉」*$a = (1,1,1,0)$、*「楽しい」*$b = (1,1,0,0)$

の角度の余弦を算定すると、「温泉」と「楽しい」の共起度は 0.816 となる。このように、単語間の共起関係の強弱（数字の範囲は 0 から 1 で、数字が大きいほど強い）を評価される。

表 2.3.2　形態素の発生数と共起度の関係

| 回答群 | 温泉 | 楽しい | 温泉 | 酒 | 楽しい | 酒 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| (2) | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| (3) | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (4) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 共起度 | 0.816 | | 0.577 | | 0.707 | |

#### 2.3.3. 共起ネットワーク図

共起ネットワーク図は、単語間のつながりを見える化したもので、出現回数を相対的に円の大きさ（node）示し、単語間は、共起度で強弱を表した線（edge）で結ばれている。共起度が大きい円どうしは、近い「距離」にあり、共通に出現していて共起関係の結果である。

今回の回答群の例を共起ネットワークとして書き起こしたものを図 2.3.1 に示す。ネットワーク図は、全体を定量的に俯瞰したり、一部に焦点を当てて読み取る（クラスター化）ことも有効で、大量の文書から特徴を客観的に見つけ出す可能性がある。

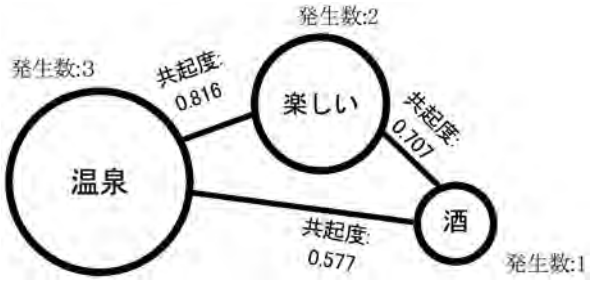



図 2.3.1　サンプル回答群の共起ネットワーク図

## 3. 文章解析の実践

### 3.1. アンケートの自由記述

当研究所では、和歌山県内の地方自治体から受託して、訪れた観光客へのアンケートを実施し、その際に自由記述欄を設けた。本稿では、これを実例として分析を試みる。

### 3.2. 解析のための準備処理

① 品詞による選別

助詞、助動詞、接続詞、代名詞等は分析結果から省略する。出現数は多いものの、文章の分析に有効な情報ではないためである。

例）観光アンケートの自由記述を形態素解析し、すべての品詞を表示した結果は 表 3.2.1 のとおりとなった。文章（群）の意味を見出すには不適当なデータである。

表 3.2.1 すべての品詞を含めた形態素　頻出度上位 10 語

| 抽出語 | 品詞 | 出現回数 |
|---|---|---|
| た | 助動詞 | 322 |
| ます | 助動詞 | 270 |
| の | 助詞 | 265 |
| て | 接続助詞 | 260 |
| が | 助詞 | 255 |
| に | 助詞 | 251 |
| は | 助詞 | 189 |
| を | 助詞 | 184 |
| する | 動詞 B | 176 |
| です | 助動詞 | 176 |

② 表現の揺らぎ

例えば今回の事例では、「もも」「モモ」「桃」は同じものを示すが、実際の文章では回答者によって表現が異なる。また、「組み立て」「組立て」「組立」のような送り仮名のバリエーションも存在する。これらを同一のものとして処理した。

例）「みやげ」「おみやげ」「土産」「土産物」、「卵」「玉子」「たまご」「タマゴ」、「おいしい」「美味しい」

③ コーディング

コーディングとは、「特定の記述がデータ中にあれば、そのデータを 1 つのカテゴリーに分類すること」である 。今回の事例では、「宣伝」「アピール」「PR」という単語がほぼ同義で用いられているため、同一単語として取り扱った。

例）「フルーツ」「果物」、「おいしい」「旨い」

### 3.3. 形態素解析

194 件ある自由記述の文章を形態素解析によって単語に分解し、その単語を出現数の上位 50 語のリストを表 3.3.1 に示す。

表 3.3.1　形態素解析結果　頻出語上位 50 語

| rank | 抽出語 | 品詞 | 出現回数 |
|---|---|---|---|
| 1 | する | 動詞 B | 176 |
| 2 | 思う | 動詞 | 82 |
| 3 | 良い | 形容詞 | 73 |
| 4 | ある | 動詞 B | 72 |
| 5 | 行く | 動詞 | 51 |
| 6 | かつらぎ | タグ | 41 |
| 6 | 来る | 動詞 | 41 |
| 8 | 山 | 名詞 C | 36 |
| 9 | 高野 | タグ | 35 |
| 9 | 町 | 名詞 C | 35 |
| 11 | なる | 動詞 B | 34 |
| 12 | もっと | タグ | 31 |
| 12 | 橋本 | タグ | 31 |
| 14 | とても | 副詞 B | 30 |
| 15 | 観光 | サ変名詞 | 29 |
| 15 | 宣伝 | サ変名詞 | 29 |
| 17 | できる | 動詞 B | 28 |
| 17 | 果物 | 名詞 | 28 |
| 19 | おいしい | 形容詞 B | 27 |
| 19 | ない | 形容詞 B | 27 |
| 21 | 訪れる | 動詞 | 26 |
| 22 | 温泉 | 名詞 | 25 |
| 22 | 道の駅 | タグ | 25 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 24 | 今回 | 副詞可能 | 22 |
| 25 | 欲しい | 形容詞 | 21 |
| 26 | 知る | 動詞 | 19 |
| 27 | 宿 | 名詞 C | 18 |
| 28 | 市 | 名詞 C | 17 |
| 28 | 場所 | 名詞 | 17 |
| 28 | 食べる | 動詞 | 17 |
| 28 | 人 | 名詞 C | 17 |
| 28 | 大阪 | 地名 | 17 |
| 33 | いる | 動詞 B | 16 |
| 33 | 柿 | 名詞 C | 16 |
| 33 | 買う | 動詞 | 16 |
| 33 | 和歌山 | 地名 | 16 |
| 37 | 嬉しい | 形容詞 | 15 |
| 37 | 残念 | 形容動詞 | 15 |
| 37 | 宿泊 | サ変名詞 | 15 |
| 37 | 神社 | 名詞 | 15 |
| 37 | 大変 | 形容動詞 | 15 |
| 37 | 利用 | サ変名詞 | 15 |
| 43 | 初めて | 副詞 | 14 |
| 44 | わかる | 動詞 B | 13 |
| 44 | 見る | 動詞 | 13 |
| 44 | 少ない | 形容詞 | 13 |
| 44 | 情報 | 名詞 | 13 |
| 44 | 土産 | 名詞 | 13 |
| 49 | たくさん | 副詞可能 | 12 |
| 49 | 食事 | サ変名詞 | 12 |
| 49 | 多い | 形容詞 | 12 |
| 49 | 丹生都比売 | タグ | 12 |
| 49 | 訪問 | サ変名詞 | 12 |
| 49 | 良い | 形容詞（非自立） | 12 |

### 3.4. 形態素の共起と共起ネットワーク図

文章を形態素解析した結果を元に、形態素ごとに出現した数を一覧表にしたものを表 3.4.1 に示す。この表を用いて、共起する形態素を抽出する。例えば、表 3.4.1 における文章 L11 においては『温泉』と『美味しい』がそれぞれ 1 語ずつ存在するので、「文章 L11 では『温泉』と『美味しい』が共起している」としてカウントする。

これら文章群中における共起の発生確率（Cosine 値）を算定した結果を図 3.4.1 に示す。

表 3.4.1　文章を形態素解析した結果（抜粋）

| | 単語 | 温泉 | 美味しい | 訪れる |
|---|---|---|---|---|
| | 品詞 | 名詞 - 普通名詞 - 一般 | 形容詞 - 一般 | 動詞 - 一般 |
| | 総数 | 20 | 17 | 16 |
| ID | 文章 | | | |
| L　11 | ドライブによく訪れます。路上販売の柿や黒枝豆はすごくおいしく利用させてもらってます。すごく落ち着く場所です。地域の人（住人）も親切でいい人が多いです。ゆの里温泉もすごく大好きです。水のサービスがうれしい。オムレツは食べそこねて残念です。 | 1 | 1 | 1 |
| L　13 | 京奈和がつながったので、日高地方から行きやすくなりました。美味しいもの（卵、フルーツ、野菜）さがしに、何度でも行きたいと思っています。次は天野へ…の予定です。 | 0 | 1 | 0 |
| L　18 | お米、果物、農作物等、身体に良いおいしいものをこれからも沢山つくって下さい。また来たいと思います。ありがとうございました。 | 0 | 1 | 0 |
| L　19 | 丹生都比売神社に初めて訪れた時、和歌山県にこんな立派な所、「天空の城」があったのかと感動しました。それから 3 度行かせてもらいました。また行きたいと思っています。知り合いにも紹介していきます。 | 0 | 0 | 1 |

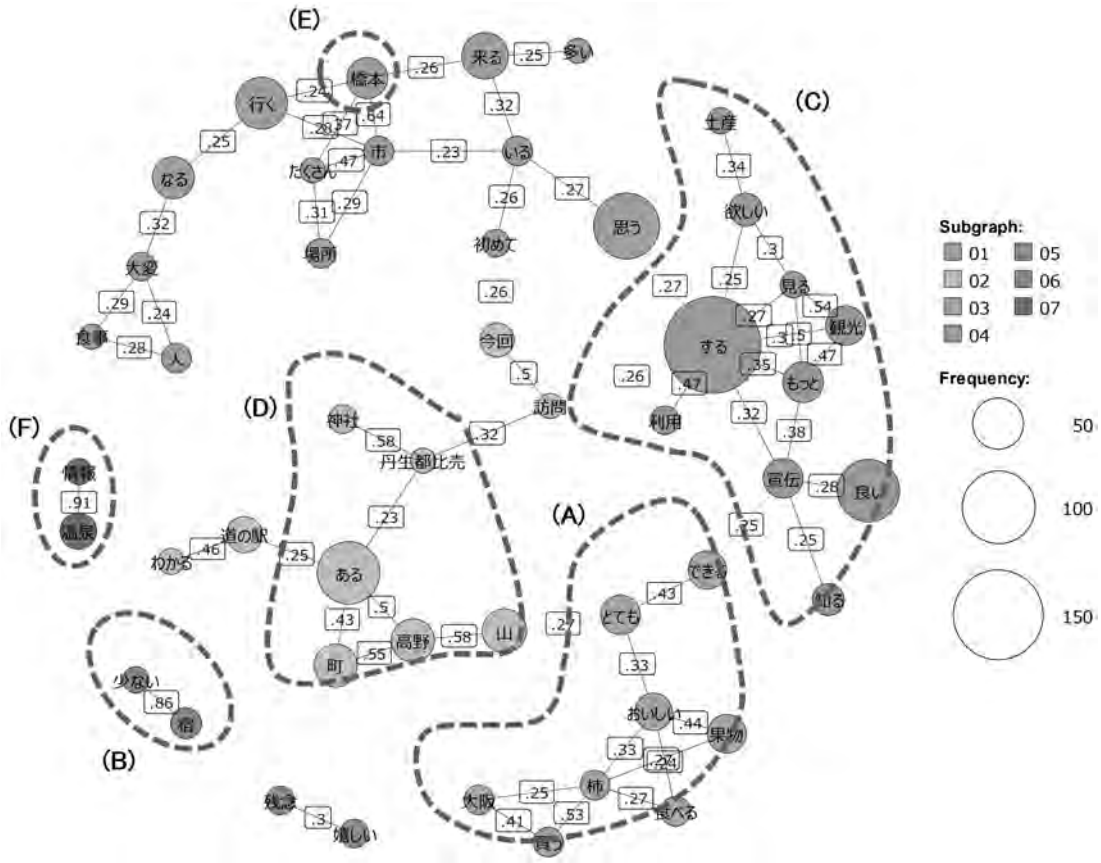



図 3.4.1　自由記述文章　共起ネットワーク図

ネットワーク図のエッジ上に示されている数値は、発生確率（Cosine 値）である。今回の事例では、Cosine 値が 0.25 以上、単語の発生数が 8 以上のものを表示した。Cosine 値または単語の発生数が小さいものまで表示すると見にくくなるため、表示する対象を絞り込んで分析、解釈が可能なレベルにする必要がある。

## 3.5. 分析結果

図 3.4.1 を用いることによって、当該エリアの評価、強みと要望・課題、弱みを抽出し、出現数（図上では単語を囲む○の大きさ）と併せて訪問者の関心度を定量的、客観的に評価することができる。

これらの「つながり」すなわちクラスターにおいて、この文章（群）に特徴的なもの、及びその解釈として想定できるものを以下に示す。

**○強み…図 3.4.1 中（A）**

- 「柿」をはじめ「果物」が「おいしい」
- 「大阪」から「柿」を「買い（←買う）」に来た

**○弱み…同（B）**

- 魅力的な「宿泊施設」の選択肢が「少ない」

**○要望・課題…同（C）**

- 「もっと」「宣伝」「した（←する）」方が「良い」
- 「土産」になりそうないいものが「欲しい」

**○観光地のつながり…同（D）（E）**

- 「丹生都比売」「神社」と「高野」「山」のつながり（D）は見えるが、一方でそれらと橋本とのつながり（E）は見えにくい。

**○訪問者の関心度…同（F）**

- 「温泉」の「情報」がもっと欲しい

## 4. まとめと今後の課題

以上、文章を形態素単位に分割し、それを再構成することで分析、定量化を行った。その中で明らかになった点を以下に述べる。

- 単語を抽出、定量化することにより、回答内容の把握を高速かつ明確にすることができた。
- 単語の結びつきを視覚化することにより、回答者意見の一定の傾向を見出すことができた。

なお、再構成の方法によりさまざまな分析が可能となるので、今後取り組んでいきたい。以下にその例を示す。

- アソシエーション分析…2つ以上の形態素（単語）で構成される組合せを抽出し、条件確率などの指標を用いて重要なキーワードを探る。
- 数量化Ⅲ類…文章における形態素（単語）の含まれ方を数値・ベクトル化し、数値の近いものの類型化（クラスター化）や、類似する文章が近くになるように並べ替える序列化などを行う。
- 数量化Ⅱ類…文章における形態素（単語）の含まれ方を数値化し、例えば満足度（満足した・しない）などの離散的な回答との関連性を見る。
- 数量化Ⅰ類…文章における形態素（単語）の含まれ方を数値化し、例えば消費額など連続的な数値の回答との関連性を見る。
- 機械学習（AI）への応用

これら文字情報分析を活用し、今後ともクライアントに提供する情報の有効・有用性、迅速性など品質の向上に努めたい。

以　上

---

1　海野裕也、（2011年10月11日）、形態素解析の過去・現在・未来、slideshare: https://www.slideshare.net/pfi/ss-9805912

2　松本裕治、（2008年）、自然言語処理における制約と選好、コンピュータ ソフトウェア 25巻3号

3　天野真家 , 森健一、（2002年11月）、漢字・日本語処理技術の発展：日本語ワードプロセッサの誕生とその歴史、IPSJ Magazine Vol.43 No.11, 1217

4　樋口耕一、（2014年）、社会調査のための計量テキスト分析、ナカニシヤ出版

研究成果報告
2

# 和歌山における過疎対策についての私的一考察

（一財）和歌山社会経済研究所　主任研究員
佐野　利之

## Ⅰ　過疎地域の現状と課題

### 1. 過疎対策の概要

我が国の過疎対策については、昭和45年に制定された「過疎地域対策緊急措置法」以来、4次にわたるいわゆる「過疎法」の制定により総合的な過疎対策事業が実施され、過疎地域における生活環境の整備や産業の振興などに一定の成果を上げてきた。現行の「過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律」は平成22年4月1日に平成27年度までの6年間の時限立法として施行され、平成24年6月に期限を5年間延長する一部改正が行われ、現在法の適用期限は令和3年3月末までとなっている。

この法律は、人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域について、地域の自立促進を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正及び美しく風格ある国土の形成に寄与することを目的としている。都道府県は過疎法に基づき、方針及び計画を策定し、指定市町村において、地域の実情に応じた計画を策定し、これに基づく計画的な事業を実施しているところである。

### 2. 和歌山県の過疎地域の現状

#### (1) 概況

平成26年5月に日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した、いわゆる「増田レポート」によると、「現在の人口移動の状況が今後も収束しなかった場合、2010（平成22）年から2040年までの間に『20～39歳の女性人口』が半数以下に減少する市区町村が、896自治体にものぼる」とされ、これらの896自治体を「消滅可能性都市」と名付けた。和歌山県では和歌山市、岩出市、広川町、日高町、御坊市、上富田町、白浜町を除く23市町村が名を連ねている。

過疎法の規程に基づき公示された和歌山県

における対象地域は 18 市町村（うち過疎地域とみなされる区域を有する市町村 :1 市 1 町、一部過疎市町村 1 町）であり、全市町村数の 60％が過疎市町村とされている。面積では県全体の約 3/4 を占めるが、人口は約 1/4 であり、人口密度も全県平均の約 1/3 程度となっている。地理的には約 85% が森林地域で、耕地は約 4％であり、大部分が内陸部又は県南部に位置している。

〈和歌山県提供資料より〉

### (2) 人口

①人口の推移（国勢調査）

○過疎地域の人口は、減少基調で推移し、県総人口に占める割合も低下している。

- 県総人口に占める過疎地域人口の割合（S45 → H27）33.0%→ 25.7％

○昭和 60 年との比較では、過疎地域以外の人口が漸減であるのに対し、過疎地域の人口は大きく減少している。

- 人口（対 S60 年）約△ 8 万人（△ 25.6％）過疎地域以外 約△ 4 万人（△ 5.1％）

○過疎地域における若年者数（15 ～ 29 歳）及び生産年齢人口（15 ～ 64 歳）の減少率が高い。

- 若年者数増減率 （S60 → H27）△ 50.3％（過疎地域以外△ 31.2％）
- 生産年齢人口増減率（S60 → H27）△ 38.3％（過疎地域以外△ 18.0％）

○過疎地域以外と比べ、高齢者比率が高い。

- 高齢者比率（S60 → H27）16.0 → 35.5％（過疎地域以外 12.0％→ 29.3％）

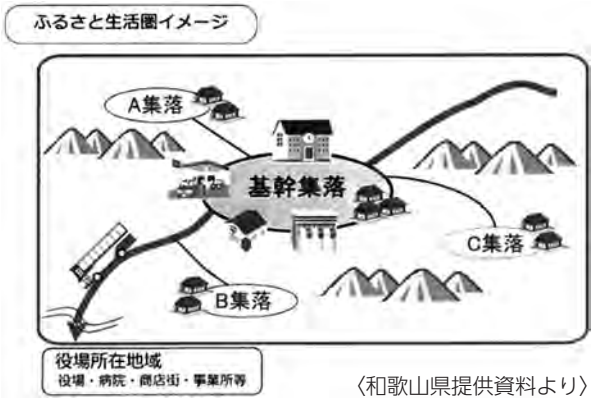
### 3. 過疎地域の課題

人口減少や少子高齢化が著しい過疎地域等では地域からサービス産業の撤退が進み、医療福祉・交通・買い物などの暮らしを支えるサービスの低下など様々な問題が生じ、生活基盤が弱体化し、集落機能の維持が困難となるとともに、地域社会の担い手が不足するなど地域の活力の低下が懸念されている。サービス業等の第 3 次産業は地方圏の雇用に大きな割合を占めており、サービス産業の撤退は地域の雇用機会の減少につながり、さらなる人口減少を招くことになる。人口の減少は地域住民によって構成される消防団の団員数の減少にもつながり、地域の防災力の低下にもつながる。また、地域の歴史や伝統文化の継承を困難にし、地域の祭りのような伝統行事が維持できなくなりつつある。このような住民の地域活動の縮小により、住民同士の交流が減少し、地域の賑わいや地域への愛着が失われていくという負の循環が起こっている。

## Ⅱ　和歌山県における「過疎集落支援総合対策」

過疎地域では、人口減少や高齢化により、地域の担い手が不足し、集落機能を維持することが困難な地域もあることから、広域的な範囲で支え合い、住民が主体となって地域の課題を解決していく「住民主体の地域づくり」が重要となっている。集落を超えた広い範囲で日常生活に必要な機能・サービスを 拠点化しネットワークで結ぶことにより、集落機能や日常生活を支える生活圏を形成していく「ふるさと生活圏」の取組を促進している。

○ふるさと生活圏・・・人口減少や高齢化等の問題を抱える地域において、基幹集落と周りに点在する基礎集落で構成される集落群からなり、住民生活の一体性が確保できる単位を「ふるさと生活圏」と定義（昭和合併前の旧町村単位や小中学校区などのイメージ）



〈和歌山県提供資料より〉

いわゆる「コンパクトシティ構想」のように暮らしに必要なインフラを集中させ、同時に住民も今まで暮らしていた地域を離れて移り住む「集住」「集落移転」という考え方もあるが、特に農山村地域においては土地への愛着や血縁等の理由から定住志向が強く、実効性に欠ける。和歌山県では、「ふるさと生活圏」を対象に、安全・安心なくらしの確保や地域産業の活性化等の様々な課題に総合的に取り組む住民主体の活動を支援している。

流れとしては

① 地域で話し合い、地域の現状を分析するとともに、課題を抽出し、目指すべき姿を決定

② 住民の意見集約・合意形成

③ 事業に取り組む組織（寄合会）の設立

④ 具体的に取り組む内容を決定

⑤ 将来を見据えた活動計画の作成

→　事業実施へ

現行の過疎法は、「過疎地域の自立促進」を目的としており（第１条）、「自立促進」とは、「個性豊かで、経済的にも自立した地域社会を構築することを促していくこと」を意味しているとされている。

この活性化事業においても地域住民自らが主体となって、地域の将来プランを作成するとともに、地域課題の解決に向けた多機能型の取組を持続的に行うための組織である「寄合会」たる「地域運営組織」を形成し、その活動のための拠点を設けるとともに活動の中に継続的に財源を確保する仕組みを確立している。

活性化事業を実施するのは、あくまで地域住民であり、市町村や県はサポートの立ち位置に徹している。住民が地域に関心を持つことによって、地域振興のアイディア創出につながり、延いては産業振興にもつながると考えられ、過疎問題に対して有効と思われる。市町村や県が主体となって行政側がつくったプランを住民たちが事業を推進する場合は、住民が集落を活性化したくなくとも活性化を望むようなふりをすることもあると思われ、その点を鑑みずに活性化策を上から推し進めた結果、期待されたほどの成果が上がらなかったときに、その地域はいままで以上に活気を失うことになりかねないと考えられる。

元来、集落とか部落といわれる「村」には、現在から思えば高度な自治の仕組み、個々では解決できない【生活を維持するための互助の地域運営組織】が確立されていた。多くの「村」には十数戸から数十戸の家々によって成り立ち、各戸の領域があるエリアにおいて共存していくための「組」や「講」などの様々な地域運営組織が存在していた。

地域運営組織は、行政にはない「立場の柔軟性」や「地元密着性」を生かし、具体的な個別の課題に取り組むことが可能である。しかし地域運営組織は、活動に際し十分な機会および財源がない、という大きな問題がある。「地域の活性化」という思いが強くても、活動の機会や財源が確保されていなければ、有効な活動は継続できない。運営組織が活動する機会を提供し、

財政面の支援を行い、場合によっては連携・協力して過疎対策・地域活性化に取り組むことが市町村や県の役割として重要となる。過去には過疎地域において様々な活性化策が施されてきたが、そうした対策の多くが期待されたほどの効果をあげることは出来ず、その結果、重要な役割を果たしていた地域の組織・共同体が消滅しただけでなく、集落そのものの多くが消滅したのである。こうした地域の活動を持続可能なものとすることで、過疎地域における生活関連サービス等が維持され、いつまでも暮らし続けられる地域社会につながることが期待される。

これまでの過疎対策では、道路や水道といった基礎的な生活環境基盤の整備や公共施設の整備といったいわゆる「ハード事業」に重点が置かれており、その結果、過疎地域とそれ以外の地域との格差は縮小してきていると考えられる。しかし、過疎地域では人口減少と地域社会の機能の低下が続いており、将来の維持が危ぶまれる集落も依然として多く存在している。なぜ「これまでの過疎対策」は目指していた定住対策としては効果的なものにならなかったのか。

これは過疎法の上位計画である全国総合開発計画が、地方都市が発展すればそれに伴い、過疎地域も発展し、過疎問題も解決すると考えていたことに起因する。しかし実際は、地方都市の発展による過疎地域への波及効果は地方都市の近隣地域に限定された。つまり「ハード事業」中心では過疎問題を解決することはできなかったのである

和歌山県における今回の過疎集落支援総合対策は、住民が主体である「寄合会」たる地域運営組織と地域の既存組織等の連携を促し、収益を生む「特産品の開発・販売」などを盛り込みつつ、地域の世代間交流やU・Iターンを含めた移住・交流の促進、誘客の促進（ソフト事業）および地域の保全・整備（ハード事業）まで絡めた総合的な発展・活性化を目指している。令和３年１月時点で22市町村40生活圏の地域で44の事業が進んでいる。ページ数の限りもあり、具体的な事業・活動の紹介は別の機会とさせていただくが、そのほとんどの地域で一定以上の成果が見られ、一部地域では特筆すべき成果を上げているようである。

〈和歌山県提供資料より〉

過疎地域は、近年日本全体の人口が減少に転じたこともあり、「生活条件の整備が遅れた地域」ではなく、むしろ「人口減少社会の維持可能性の先行事例」として捉えられており、集落を守ることは、日本の将来への課題として考える必要がある。今回の過疎集落支援総合対策が一定の成果を上げていることからも令和３年４月に引き継がれるであろう新たな「過疎法」においても継続した取り組みを期待したい。

経済指標

# コロナ禍における和歌山県内事業者の取り組み

## ～「コスト削減」、「非接触・オンライン」の取り組みが進む ～

（一財）和歌山社会経済研究所　研究員

藤本　迪也

### 1. 持ち直しの兆しを見せていた県内経済

「新型コロナウイルス感染症対策」という言葉が、日常生活の一部となって1年以上が経過した。新規感染者数の動向を注視しつつ、「人流抑制」と「経済活動の正常化」のバランス調整をどのようにとるか、行政、事業者に限らず、各個人が試行錯誤を繰り返してきた。その中で、後述する2020年10～12月期は、1度目の緊急事態宣言（20年4～5月）で休止を余儀なくされた経済活動に持ち直しの兆しが見られた時期だった。

#### ○ 県内事業者の売上高水準は10月にかけて持ち直す

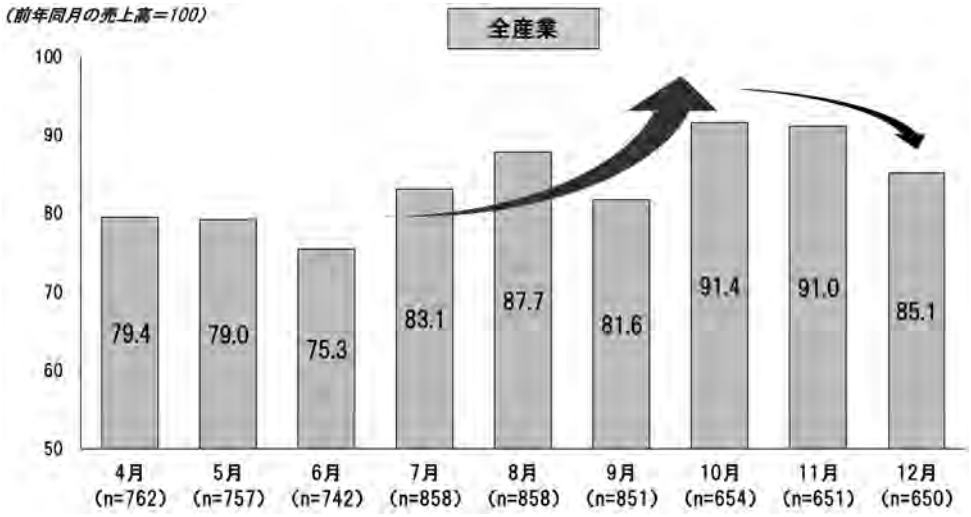
当研究所で3か月ごとに実施している「景気動向調査」では、県内事業者に対して、各月の売上高水準を質問している（前年同月の売上高を100として）。全回答事業者の平均値の推移を示したものが、図表1である。

図表1によると、20年6月の75.3を底に、10月にかけて持ち直しの動きが見られた（9月については、前年同月に消費増税前の駆け込み需要が見られたため、その反動減が見られた）。

#### ○ 昨夏から昨秋にかけての経済活動の再起動

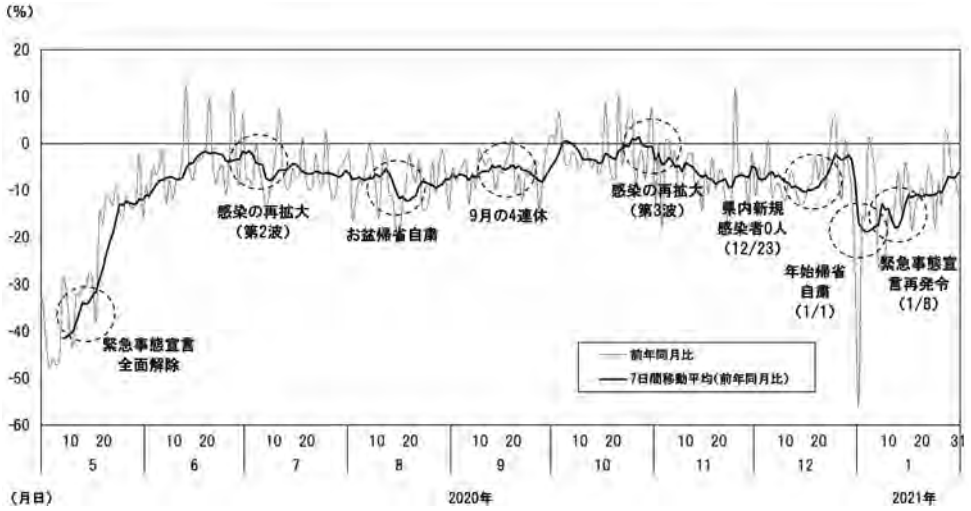
新型コロナ感染の第2波（20年7月～8月）により、お盆の帰省自粛が見られたが、それ以降は、1日の新規感染者数が1,000人を下回る日が11月初旬まで続いた。9月以降には、観光需要・外食需要の喚起策「GO TO」キャンペーン事業が開始され、図表2に示す通り、JR和歌山駅前の人出状況も10月にはほぼ前年並みの水準まで持ち直した。

図表１　県内事業者の売上高水準（前年同月を 100 とした全事業者の平均値）




（注）前年同月の売上高を 100 とした場合の売上高水準を質問し、回答事業者の平均値を算出。
（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」（2020 年 12 月実施）

図表２　JR 和歌山駅前の人出の状況（前年同月比）




（注 1）JR 和歌山駅周辺 500m メッシュ内の平日・休日 15 時の人口をもとに算出
（注 2）前年との曜日の違いを考慮し、各日の比較対象は前年同月の平均値
（資料）NTT「モバイル空間統計」

コロナ禍を受けて、米国、中国等で実施された大規模経済対策を背景に、４～６月期には大きく落ち込んでいた生産活動も急激な回復を見せ、日本国内では自動車工業、半導体関連産業を中心に持ち直しの動きが見られた。この結果、県内においても、製造業、機械器具卸売業などで景況感、業績に改善が見られた。

ただし、留意点として、図表３に示す通り、売上高水準が極めて低い状態にとどまる事業者が、旅館・ホテル業、生活関連サービス業（冠婚葬祭業等）、生活・文化用品小売業（宝石・貴金属小売業等）で複数あり、業況は業種、事業者間で差が見られる。

図表 3　2020 年 10 ～ 12 月期の売上高水準が前年比 50%以上減の事業者の割合

| 業種名 | 事業者割合（%） |
|---|---|
| 旅館・ホテル業 | 21.4 |
| 生活関連サービス業 | 16.7 |
| 生活・文化用品小売業 | 15.9 |
| 不動産業 | 14.1 |
| 職別工事業 | 12.3 |

（注）10 ～ 12 月の各月における前年比 50%減の事業者割合を平均した値
（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」（2020 年 12 月実施）

## 2. コロナ禍に対する県内事業者の取り組み①「コスト削減」

### ○ 再びの緊急事態宣言発令

以上のように、10 月にかけて県内経済活動は 4 ～ 6 月期の最悪期を脱し、総じて持ち直しの動きを見せていた。ただし、11 月に入ると、再び新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、12 月中旬には「GO TO トラベル」キャンペーンの全国一斉停止が決定された。年末年始には、「初売り」、「初詣」の自粛（分散訪問）が呼びかけられたが、感染者数の拡大は止まらず、政府は東京都、大阪府などの 11 都府県に対して緊急事態宣言を再発令する事態となった。

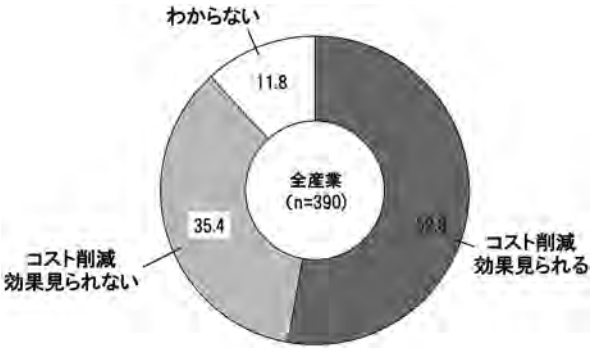
この結果、和歌山県内においても、JR 和歌山駅前の人出状況（図表 2）は、11 月以降、再び悪化している。図表 1 の県内事業者の売上高水準についても、12 月の値は下降している。

### ○ 売上高水準が低下する中、県内事業者の 6 割強が「コスト削減」に取り組む

コロナ禍の収束が見通せず、売上高水準も回復できていない状況の中で、県内事業者はさまざまな取り組みを実施している。中でも、「コスト削減」に取り組む事業者は 62.2%と多く、具体的な内容としては、「出張費の削減」、「労働時間の削減」といったものに加えて、「事業内容の見直し（取扱い品目・サービスの見直し）」、「仕入先・仕入品の見直し」等が見られた。

また、その効果の有無について質問したところ、図表 4 に示した通り、「効果が見られる」と回答した事業者が 52.8%と過半数を占めた（見込み含む）。

図表 4　実施しているコスト削減の効果の有無



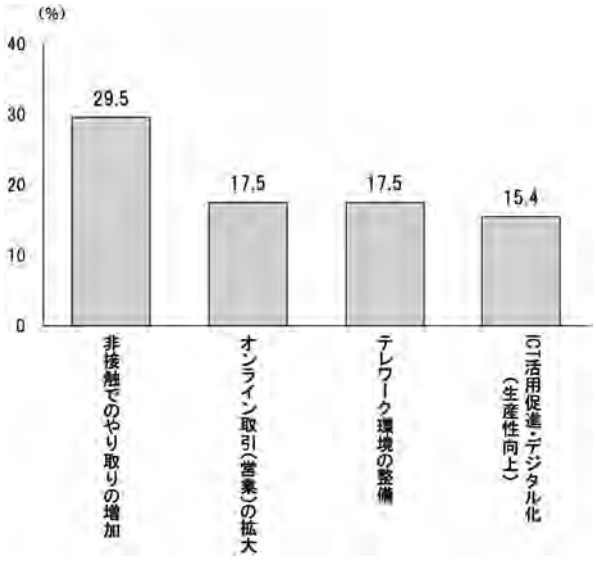

（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」（2020 年 12 月実施）

## 3. コロナ禍に対する県内事業者の取り組み②「非接触・オンライン」

### ○ 一部の事業者で ICT（情報通信技術）の活用が進んでいる

「コスト削減」の他にも、感染防止対策として「非接触」、「オンライン・リモート」に関する取り組みを進める事業者が 1 ～ 3 割程度見られた。「オンライン取引（営業）の拡大」については、衣料品小売業（44.4%）、機械器具卸売業（33.3%）などで回答が多く見られた。「テレワーク環境の整備」については、化学製品製造業（43.8%）などの製造業で回答が多い。また、「ICT 活用促進・デジタル化（生産性向上）」については、旅館・ホテル業（32.0%）、医療・福祉（29.7%）で回答が多くなっている。

図表５ 「非接触・オンライン」に関する取り組みを行う事業者の割合




（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」（2020 年 12 月実施）

## 4. コロナ禍に対する県内事業者の取り組み③「ニーズの変化への対応」

### ○ この１年で社会の「ニーズ」は大きく変化

コロナ禍が長期化する中で、個人の生活、企業活動は変化を余儀なくされており、その結果として、それぞれの「ニーズ」は大きく変わりつつある。在宅勤務の機会が増え、外出自粛の動きが強まる中で、家庭での調理機会（内食）が増加したり、居室空間を快適にするためのリフォーム需要（自身で行う改修を含む）が伸びている。このような「巣ごもり需要」は白物家電（エアコン等）、黒物家電（液晶テレビ等）などにおいても見られる。飲食業界では、テイクアウト・デリバリーに対応する事業者が増え、自宅でお店の味を再現できるミールキット（レシピと食材のセット販売）を販売する事例も全国では見られた。

デジタル技術やインターネットを活用することで、これまでにないサービスも生まれている。インターネット上での講演会・セミナーはこれまでにも実施されていたが、その機会は大きく増加した。学習塾やフィットネスジムがインターネット上で利用者を指導・サポートする事業も拡大している。観光業界では、インターネットを使って、専門家の解説を聞きながら、海外・国内の観光地をパソコン等の画面越しに旅行するオンラインツアーが販売されている。

コロナ禍で生まれた新たな商品・サービスは事業者間の競争の中で、洗練されていき、さらなる市場の拡大と関連産業の創出をもたらすだろう。

### ○「ニーズの変化への対応」を行う事業者は 15.3%

このような「ニーズ」の変化に対して、取り組みを進めている県内事業者を前述の「景気動向調査」（2020 年 12 月実施）で確認したところ、15.3％の事業者が商品・サービスの開発などにより、「ニーズの変化への対応」を進めていることがわかった。「新規事業の展開」を行う事業者も 10.3％見られる。

政府は今後の経済対策において、新分野展開や業態転換を図る事業者に対し、そのための設備費用、教育訓練費用などを支援する方針で、県内事業者は、このような支援策を有効に活用しながら、コロナ禍の環境変化に対応することが重要になっている。

# グラフで見る和歌山県経済指標

## 和歌山県経済は個人消費・企業活動ともに持ち直しの兆しも見られるが コロナ感染の再拡大もあり、見通しの不透明感が強い

### 日本経済の現状(内閣府「月例経済報告 2021年1月」)

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により
依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる

・「国内景気」に関する判断は、8月以降変化なし
・「輸出」、「生産」など製造業に関する判断が引き上げられる一方で、一部地域での緊急事態宣言再発令を受けて、非製造業の「業況判断」が下方修正され、「個人消費」も下方修正された

### 日本経済の見通し(内閣府「月例経済報告 2021年1月」)

感染拡大の防止策を講じつつ、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されるが、内外の感染症拡大による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

・12月に「内外の感染症拡大による下振れリスクの高まりに十分注意」との文言が追加された。

### 和歌山県に関する経済指標の概況(1月公表の指標を中心に)

○百貨店・スーパー販売額(全店、12月)は、店舗閉鎖や競争激化の影響もあり、前年比5.1%減

○新車販売台数(軽自動車[乗用]含む、12月)には、回復傾向が見られる

○新設住宅着工戸数は、2019年10月の消費増税以降、減少傾向が続いている

○鉱工業生産指数(11月)の水準は極めて低く、県内製造業全体への悪影響が懸念される

○公共工事請負金額は、増勢を維持

○有効求人倍率(12月)は、前月から横ばいの0.95倍。先行きについては悪化懸念が残る

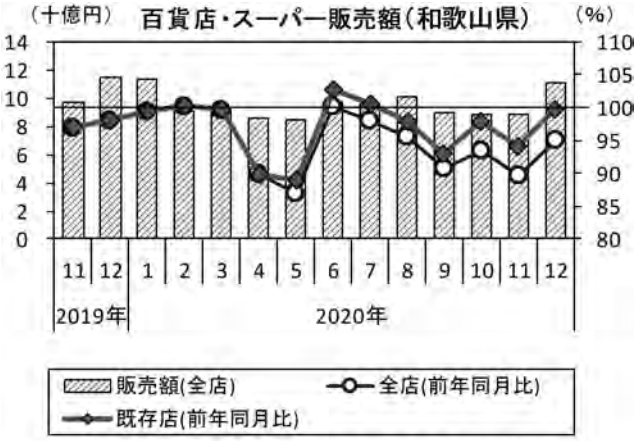
**和歌山県内の主な経済指標の状況 (前年同月との比較、一部前月との比較)**

| | | 2019年 | | 2020年 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 個人消費 | 百貨店・スーパー販売額(全店) | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | ● | − | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| | 新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ |
| | 新設住宅着工戸数 | ○ | ○ | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | ○ |
| | 家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯) | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | |
| 企業活動 | 鉱工業生産指数 ※前月比 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | ● | ● | ○ | ● | ○ | ○ | ● | |
| | 公共工事請負金額 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ○ |
| | TDB景気DI ※前月比 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 物価 | 消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比 | ○ | ● | ● | ● | ○ | ○ | − | ● | ○ | ● | ○ | ○ | − | ● |
| 雇用 | 有効求人倍率(季節調整値) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

(注) ○:上昇(増加) −:横ばい ●:下降(減少)、空白はデータ未発表

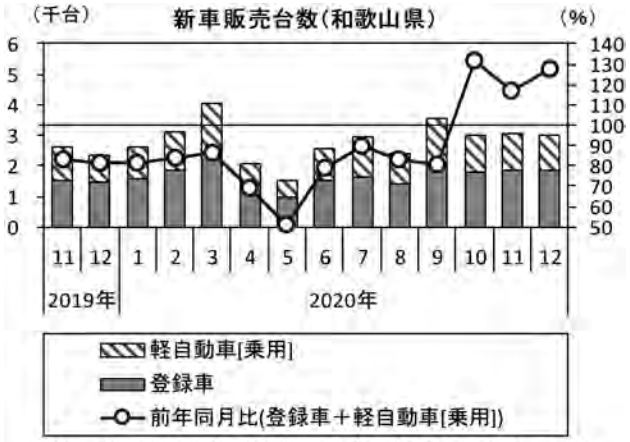
## 個人消費

**百貨店・スーパー販売額（全店、12 月）**は、前年比 5.1％の減少となった。複数見られたスーパーの閉店による影響を除外した「既存店」売上高では、前年比 0.4％減となっている。全国的には家庭内調理機会の増加で、スーパー販売額は伸びているが、県内ではドラッグストアなどとの競合も激化しており、販売額は減少している。近鉄百貨店和歌山店の販売額（12 月）は、前年比 1.1％減となった。新型コロナウイルス感染症対策によるセール前倒しの影響もあり、減少幅（11 月は同 13.7％減）は縮小している。新型コロナウイルス感染症の感染が再拡大する中で、JR 和歌山駅前の人出も再び減少傾向にあったが、ドラッグストア、コンビニ、ホームセンター、家電量販店など主要 6 業種合計での販売額は 3 か月連続で前年を上回っている。



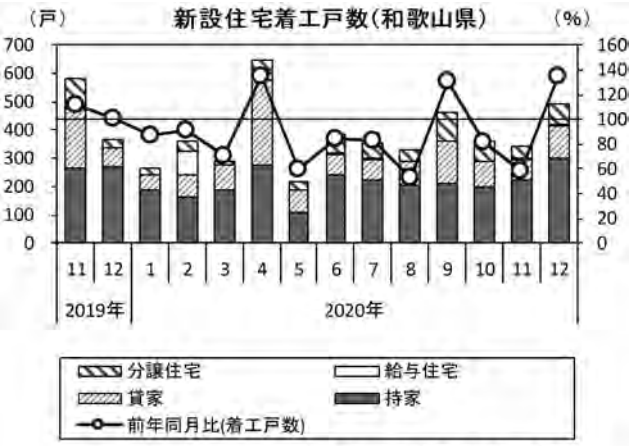
(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

**新車販売台数（軽自動車 [ 乗用 ] 含む、12 月）**は、前年比 27.6％増となった（増加は 3 か月連続）。前年 12 月は消費増税の駆け込み需要の反動から販売台数が大きく減少（同 18.2％減）しており、そこからの反動増と考えられるが、2 年前（2018 年）の 12 月の販売台数と比べても遜色はなく、コロナ禍で急激に落ち込んだ販売台数は回復傾向を見せている。中でも、各メーカーの新型車の販売好調もあり、登録車で回復傾向が強い。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに
和歌山県自動車販売協会資料

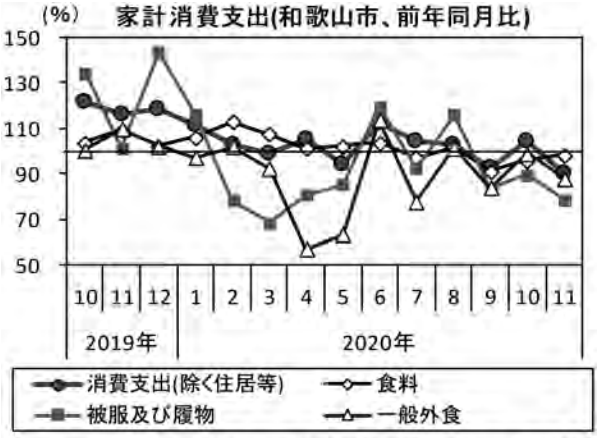
**新設住宅着工戸数（12 月）**は、前年比 34.5％増となった。ただし、2019 年 10 月の消費増税以降、減少傾向が続いており、2019 年 10 月～ 20 年 12 月までの累積着工戸数は前年同期比 8.1％減となっている。2018 年から 19 年にかけて、「持家」、「分譲住宅」を中心に増加傾向が見られていた県内新設住宅市場だが、消費増税以降は、この「持家」、「分譲住宅」を中心に減少が続いている。地域別では、有田市、和歌山市、田辺市、橋本市などで減少幅が大きく、岩出市については底堅さも見られる。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

**家計消費支出（除く住居等、11 月）**は、前年比 9.9％減と 2 か月ぶりに前年を下回った。11 月中旬以降、平年に比べて気温の高い日が続いたこともあり、被服及び履物への支出額が大きく減少した。さらに、11 月に入り、新型コロナウイルス感染症が国内で再拡大し、下旬には一部地域を対象に「GO TO トラベル」キャンペーンが停止された。JR 和歌山駅前の人出は再び減少傾向を見せ、外食への支出が減少した。

※和歌山市の調査対象先は 90 世帯程度と少ない上に、調査対象が半年（単身世帯は 3 か月）で変更されている点には留意。



（資料）総務省「家計調査」（二人以上の世帯）

## 企業活動

**鉱工業生産指数（11 月）**は、前月から 6.2 ポイント下降（下降は 3 か月ぶり）。その水準は極めて低く、自動車工業を中心に持ち直してきた全国との差は拡大している。県内生産指数が低水準にある要因としては、2020 年 4 月から高炉 1 基の休止状況の続く鉄鋼業の生産水準の低さが挙げられる。また、汎用機械工業や生産機械工業の生産水準も低く、石油・石炭製品工業の生産水準は 2013 年以降の最低水準にある。

コロナ禍による悪影響が及んでいる業種が多く、収束の見通しが立たない中で、生産指数の持ち直しはあまり期待できない。県内製造業全体への悪影響が懸念される。

(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
和歌山県調査統計課ウェブサイト

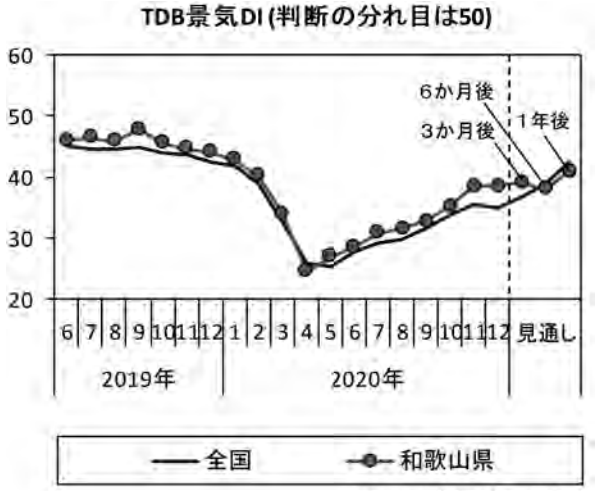
**公共工事請負金額（12 月）**は、前年比 21.2％増となり、3 か月ぶりに前年を上回った。4 月～ 12 月累計での請負金額は前年同期比 14.4％増と増勢を維持している。この間、阪和自動車道の 4 車線化、すさみ串本道路、下津港、南紀白浜空港国際ターミナル、各市町の公共施設等の大型工事が多く見られた。12 月については、阪和自動車道・湯浅御坊道路・新宮紀宝道路に関する大型工事が複数見られた。

(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

**TDB 景気 DI（12 月）**は、㈱帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

5 月以降、景気 DI は 8 か月連続で上昇しているものの、12 月は前月からの上昇幅が 0.1 ポイントまで縮小した。11 月に入り、新型コロナウイルス感染症が再拡大し、12 月中旬には、「GO TO トラベル」キャンペーンの全国一斉休止が決まった。この点を含めて、事業者の景況感が下押しされている可能性は高い。業種別では 12 月の非製造業の景気 DI が前月比 1.0 ポイントの下降となった。

この結果を受けて、帝国データバンクは「景況の本格回復には時間を要する」と分析している。



(資料)㈱帝国データバンク

## 物　価

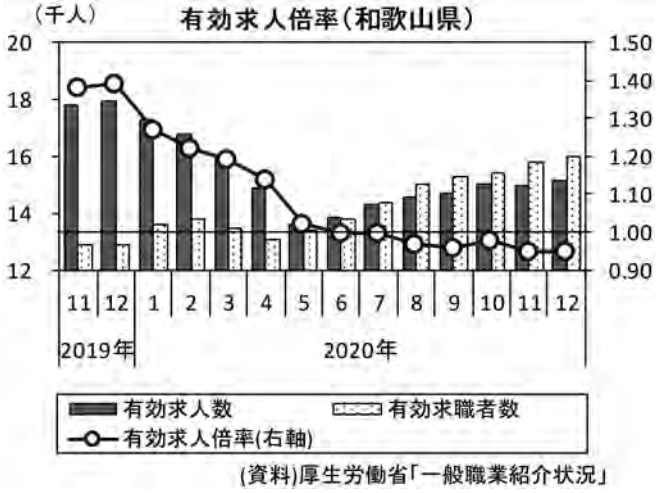
**消費者物価指数（和歌山市、12 月）**は、総合については 2 か月連続で下降している。電気代・ガス代等のエネルギー価格の下落に加えて、生鮮食品の価格が低下した。家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財の価格も低下しており、コアコア CPI（食料（酒類を除く）及びエネルギーを除いた物価指数）についても、前月から 0.1 ポイント下降した。11 月以降、ワクチン開発への期待などから、原油価格が上昇しており、エネルギー価格の先行きは上昇が見込まれる。ただし、エネルギー価格を除くコアコア CPI については、弱含むと考えられる。

(注)コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料)総務省「消費者物価指数」

## 雇　用

**有効求人倍率（12 月）**は、前月から横ばいの 0.95 倍。有効求職者数、有効求人数ともに増加した。

離職票交付件数（12 月）は前年比 2.8％減となっており、雇用保険受給者実人員も 4 か月連続で減少するなど、多くの失業が発生している状況ではない。また、新規求人数が足下で増加傾向にあり、雇用環境には持ち直しの兆しも見られる。ただし、コロナ禍に係る緊急事態宣言が再発令されるなど、1 月以降については再び悪化する懸念が残る。



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

# 和歌山ブラぶらウォッチング 37

## 山田猪三郎碑　～日本式飛行船のパイオニア～　（和歌山市和歌浦）

山田猪三郎碑（高津子山登山道）

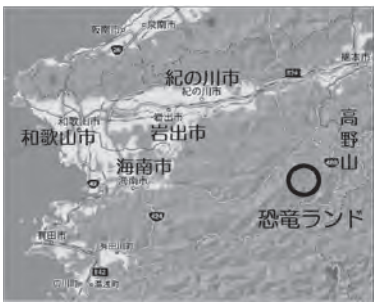
1886 年（明治 19）潮岬沖で英国船が遭難し、英国人船員全員はボートで助かったが、日本人乗組員全員が遭難死するというショッキングな事件が起きた。トルコ軍艦エルトゥールル号遭難の４年前である。義憤にかられた山田猪三郎は大阪のゴム加工会社で技術を習得。日本初の海難救命具を開発し海軍に納めた。技術は気球開発へと繋がる。1904 年（明治 37）日露戦争での旅順攻略の際、この気球は高所からの見張りで大活躍した。（この功績で勲章授与された）気球はその後飛行船へと進化し、1910 年（明治 43）山田式飛行船第一号が飛行に成功、翌年東京上空を一周した。この時の状況は NHK のテレビ小説「はね駒」の中でドラマ化された。猪三郎は 1913 年（大正 2）51 歳の若さで病死した。

ところで猪三郎の人生の一大転機となった英国船遭難事件では英国との不平等条約が大きくクローズアップされ、改正を求める世論は沸騰した。1894 年（明治 27）当時の外相陸奥宗光は改正に尽力し成功した。遭難事件から８年後である。陸奥宗光も和歌山が生んだ偉人の一人です。　（取材　萬羽）

## 恐竜ランド　～洞窟ラビリンスで恐竜体験～　（かつらぎ町花園）

花園村は高野山の麓にある。明治になるまでは高野山直轄の寺領で寺や庵が沢山あったという。ここ小原洞窟はもともと滝修行中の僧によって発見された光り物が元となった銅鉱山の坑道跡で、昭和 40 年頃まで採掘が続けられたという。小原洞窟恐竜ランドは洞窟の持つ太古のイメージと恐竜をドッキングさせた村おこしの観光施設です。入口でヘルメットを受け取りいざ中へ。色とりどりにライトアップされた洞窟内には恐竜の模型やお地蔵さん、閻魔大王、鉱石など展示物が多い。水が流れる箇所や小さな滝もある。通路は狭く時には急階段を登ったり降りたり。迷路の様な洞窟内部は大人でも冒険心がくすぐられます。一度訪ねてみませんか。　（取材　萬羽）

ラビリンス入口



洞窟内部

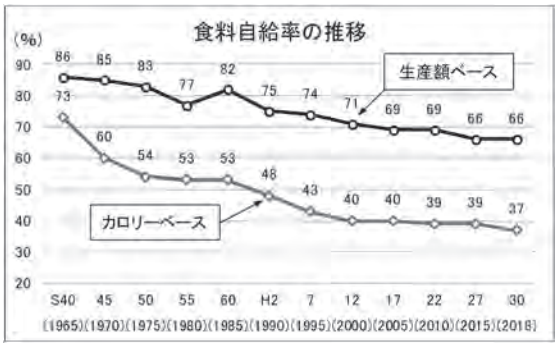
## ◆ 食料自給率の研究 ◆

国内のカロリーベース食料自給率は 2018 年度においては 37％となり、年々減少傾向となっています。今後、世界的な食料品のサプライチェーンの混乱による輸出制限、食料品不足等の有事に備えた食料安全保障の強化が重要となっています。

そのためには国内生産基盤の強化により、食料自給率の向上を図っていく必要があります。自給率について全国の現状と都道府県別の特色について調査し、地域に即した自給率向上策について研究しています。

2018 年度都道府県別食料自給率（％）

| | 全国 | 北海道 | 大阪 | 和歌山 |
|---|---|---|---|---|
| 生産額ベース | 66 | 214 | 5 | 113 |
| カロリーベース | 37 | 196 | 1 | 28 |




出典：農林水産省

## ◆ GIS の活用について ◆

GIS（地理情報システム）は、PC で地図上に情報を重ね、編集・検索・分析・管理などを行えるシステムのことで、各情報の可視化を可能にするものです。近年、行政事務や教育などへの活用のほか、民間業務の効率化などを目的に利用されています。

出典：（筆者作成）QGIS と国から提供されているデータを利用し、バス停や駅から 300m 円と 65 歳以上人口総数 5 次メッシュを重ねたもの

GIS で活用するデータは、e-stat（国政府統計の総合窓口）などの国のダウンロードサービスから入手でき、農林、道路、防災など幅広い分野のデータがあります。

GIS ソフトには高価で高機能なものもありますが、無料のものもあります。Web 上で使用できる J-stat MAP や QGIS（フリーソフト）なども公開されており、今後、幅広い分野で利用が進むことを期待しています。

### メールマガジンのご案内

当研究所発行の「WISEメールマガジン」では、HPの更新状況や、講演会・セミナー等のご案内などをお知らせしております。

登録ご希望の際は、下記アドレスの「WISEメールマガジン」から、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

URL:**http : //www.wsk . or. jp**

### 賛助会員　募集中！

◎ 会費：1口　2万円（年）

◎ 特典：刊行資料の配布、調査・研究成果の提供、講演会・セミナー等への参加、情報提供等

【編集後記】

## 起業現場におけるメンター（助言者）の重要性――「ビジネスプラン・コンテスト」の意義

今年で６年目となる「元気わかやま――ビジネスプラン・コンテスト」の公開プレゼンテーションと審査・表彰式が、先般、和歌山市のプラザホープ４階ホールで開催された。コロナの影響で、開催自体、危ぶまれたというが、参加者、関係者の細心の対策で無事に遂行した。三密を考慮し、例年より入場定員は少ないものの、昨年まで「一般の部」のみであったが、今年初めて「学生の部」を新設したこともあり、次代を担う高校生ら若者の姿も多く、フレッシュな活気が感じられた。

このコンテストの目的は、県内の創業･起業家、あるいは本県にふさわしい新たなビジネスプランを発掘し、それぞれのテーマや段階に応じて、県内の経済団体や金融機関等支援機関による専門的、継続的な支援を行い、地域社会の活性化を図り、「元気わかやま」の実現をめざすものである。主催は、「創業支援セミナー in 和歌山」実行委員会（和歌山商工会議所・和歌山県商工会連合会・日本政策金融公庫和歌山支店・和歌山県信用保証協会・紀陽銀行・きのくに信用金庫・わかやま産業振興財団の７機関）で、県と和歌山市が後援している。

コンテスト応募の対象は、県内で今後１年以内の起業を検討している人や、県内で起業して３年未満の人、県に関わりのある学生等である。

開会の挨拶で、福田実行委員長は、「創業から閉鎖に至る会社の寿命は、帝国データバンクによれば、平均37.5年で、人間の一生に比べて短く、新しく創業する人を発掘」することが必要と述べ、戦後、家内工業で手袋編機を開発した島精機製作所を例に「第２の島精機をめざし、世界にはばたく企業に成長してほしい」とエールを送った。

さらに、後援の和歌山県企業政策局の北廣局長は、「県内の創業率は低位であったが、少し上昇してきたこと、県が取組む様々なスタートアップ支援施策、起業塾、インキュベーション施設の提供、資金援助、専門家派遣等をパッケージででサポートしている」ことを紹介した。

今回のコンテストには計51組の応募があり、１次、２次の選考を通過した８組（一般５・学生３）の応募者本人による各10分のプレゼン発表（緊張しつつも、それぞれ個性的な）が行われた。前日のリハーサルでは、語りたいことが多すぎて、規定の10分を大きく超え、30分近くになった人もいたらしいが、何度も修正を重ねたとのこと。また、今年は、各プレゼンの後、審査員との質疑応答もあり、温かくも鋭い質問が投げかけられた。

審査は、「創造性・成長性・収益性・地域、社会貢献・プレゼン評価」の５項目で、８名の審査員の採点集計により、各部で最優秀賞、優秀賞、優良賞等を決定した。私も審査させていただいたが、白熱した選考であった。

「一般の部」の最優秀賞は、和歌山市出身で東京在住のIT企業に勤める男性による「デジタル技術活用による新たな旅体験の提供」に決定、賞状と副賞の賞金20万円を獲得した。彼の応募の動機は、県外に出て、和歌山の知名度や観光客数が、その魅力に反して、少ないのではと思ったからだという（例えば、ダイヤモンド社による「観光で行きたい都道府県ランキング2020」では、全国27位）。そこで、観光客と観光地情報をITで結びつける専属ガイドアプリや、AR/VR技術を活用し、在宅でも専用ゴーグルをつけて仮想空間で、臨場感ある旅行体験ができるサービスを提案した。今後、5Gの普及と連動して、拡大が見込まれるとしている。

また、優秀賞には、和歌山市でパン店を開業した男性による「和歌山県産柑橘酵母のパンで作るフレンチ総菜パン」が選ばれた。彼は、和歌山産柑橘類の廃棄される皮を大量に譲ってもらい、自家製酵母を培養して発酵させた生地でパンを焼く。特産の生姜を練りこんだものや、地元で獲れた猪や鹿などジビエを使った総菜パン…、かつてフランス料理店で働いた経験もあり、様々な理由で農家が出荷できない廃棄予定の農産物を用い、フランス料理の加工技術で付加価値を付ける。和歌山の食材を使い、食材を無駄にしないという。

優良賞には、山里の資源と都市部のニーズのマッチングを図る「新城・山里のめぐみ資源活用事業」が選ばれた。山里を自然と共生する場とし、獣害や耕作放棄地の増加、離農、雇用の減少を、消費に転換するしくみをつくる。付近は、県のサイクリングコースにも指定され、グリーンツーリズムの拡大を見込んでいる。

今回新設の「学生の部」では、最優秀賞に和歌山市の高校生のグループによる「自己紹介や名刺代わりになるLINEスタンプの制作・販売」が選ばれた。LINEスタンプのデザインコンテストを開催、アマチュア作家の登竜門とし、作品の版権を取得して国内外に販売するという。

優秀賞には、同じく和歌山市の高校生グループによる「和歌山紀南の野菜・果物収穫イベント」と、新宮市の高校生による「紙でできたペットボトル容器」が選ばれた。前者は、ロケット発射場となる串本町を想定したもので、地元高校生との連携を図り、集客につなげる。後者は、環境貢献を目標に、素材をリサイクル紙や県産の木材、バイオプラスティックとし、飲料メーカーに売り込むという。

私の知人に、２度、起業した人がいる。純粋な営利事業でなく、衰退しつつある地域の課題をみつめ、振興へ誘導する社会益・共益的な分野で、最新のITを導入すれば、即解決というものではない。古い事情や人間関係が問題の根底に潜んでいたり、技術力や発想力よりも起業家の人間力のようなものが、起業の先行きを左右したりする。しかし、起業活動が進んでくると、なぜかうまく進まない、何が原因か、さっぱり分からず途方に暮れる。そんな時に、「視点・考え方」のヒントをくれたのが、彼が信頼するメンター（助言者・伴走者）であった。

彼は、メンターの重要性は語りつくせないという。自分の頭には全く浮かばない発想を示され、瞬時には理解できなかったが、真意が分かった後は、一生を支えるほどの幹になったという。その人に合ったよいメンターに巡り合えるかが、その後の事業の成否にも影響を与える。

起業経験をもつ人は、若くして起業の志を掲げる人に、先輩、メンターとして接してほしい。そして、この「ビジネスプラン」の主催者達も、専門的なノウハウをもつ力強い援軍であろう。　（谷　奈々）

21世紀
WAKAYAMA
Wakayama Institute for Social and Economic Development

VOL.97

発　　行　2021年4月12日
編集発行者　一般財団法人 和歌山社会経済研究所
〒640-8033 和歌山市本町２丁目１番地
フォルテワジマ６階
TEL 073-432-1444（代）
FAX 073-424-5350
URL : http://www.wsk.or.jp/
印　　刷　株式会社ウイング

無断転載・複写を禁ずる

裏表紙の写真は、当研究所 OB 萬羽昭夫氏撮影

長保寺（海南市）

一般財団法人 和歌山社会経済研究所
〒640-8033 和歌山市本町2丁目1番地フォルテワジマ6階
TEL.073-432-1444 FAX.073-424-5350
2021年4月12日発行 和歌山社会経済研究所報 第97号

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。